

326  
354



始



大正七年三月

出版第一二六號

臺灣に於ける黃麻

臺灣總督府農事試驗場

326-354



# 臺灣に於ける黃麻

## 目次

第一章 緒言.....	一
第二章 經濟的位置.....	二
第一節 由來及產地.....	二
第二節 用途.....	三
第三節 臺灣に於ける黃麻産額.....	三
第四節 需要供給.....	四
第三章 黃麻の特性及品種.....	六
第一節 性狀.....	六
第二節 纖維の狀況.....	七
第三節 分類及品種.....	八
第四節 臺灣に於ける品種の分布.....	一〇
第四章 天然的要素.....	一三
第一節 氣候.....	一三
第二節 地形及土質.....	一四
第五章 臺灣主要産地に於ける黃麻栽培法.....	一五
第一節 當場に於ける黃麻栽培法.....	一五

大正  
7.7.24  
寄贈

リ 寄贈本

第二節	嘉義廳下に於ける黃麻栽培法	四七
第三節	臺中廳下に於ける黃麻栽培法	五五
第四節	臺南廳下に於ける黃麻栽培法	六一
第五節	南投廳下に於ける黃麻栽培法	六六
第六節	印度に於ける黃麻栽培法	七〇
第六章	臺灣主要産地に於ける黃麻纖維製造法	七三
第一節	當場に於ける黃麻纖維製造法	七四
第二節	嘉義廳下に於ける黃麻纖維製造法	七五
第三節	臺中廳下に於ける黃麻纖維製造法	七五
第四節	臺南廳下に於ける黃麻纖維製造法	八〇
第五節	南投廳下に於ける黃麻纖維製造法	八〇
第六節	印度に於ける黃麻纖維製造法	八一
第七章	臺灣主要産地に於ける一甲步當黃麻栽培製造收支計算	八三
第一節	嘉義廳下に於ける一甲步當黃麻栽培製造收支計算	八三
第二節	臺中廳下に於ける一甲步當黃麻栽培製造收支計算	八七
第三節	臺南廳下に於ける一甲步當黃麻栽培製造收支計算	九三
第四節	南投廳下に於ける一甲步當黃麻栽培製造收支計算	九六
第八章	結論	一〇一



(一其) 黄麻の製纖維分



黄麻の製皮剥離 (其二)

## 臺灣に於ける黄麻

### 第一章 緒言

本篇は前臺灣總督府農事試験場技手細田勝次郎の在職中報告せしものなり。

臺灣産纖維作物中黄麻、苧麻、草棉、棕枴、七島蘭及大甲蘭等數種ありと雖、二千甲歩以上の栽培面積を有し三十萬圓内外の年産額を有するは黄麻の右に出づるものなし。今本島に於ける黄麻栽培區域を觀るに澎湖列島を除き全島各地に亘り其作付面積及産額中最も多きは嘉義、臺中、臺南等中部地方にして、北部地方に至るに従ひ漸次減少するを見るべし。之本作物栽培上土地氣候等の不適當なるにあらすして稻作を主とする關係上田畑耕地面積の配當一方に偏せるに基因するか如し。

方今本島に於ける殖産界の發展に伴ひ黄麻製品を必要とする米麥其他輸移出用産物比年増加するに至れり。然るに本島産黄麻の産額と云ひ黄麻纖維製作工業と云ひ尙未だ幼稚の域を脱する能はずして之が需給圓滑を缺き、不足の原料及製品を島外輸入に待たざるべからざるの現況なり。之を以て本島黄麻作は將來那邊迄之を改良發達せしめ得るやは今直に論斷すること能はずと雖、之が現況調査をなすは本問題解決上確かに好資料たるべく又當場に於ても參考資料を蒐集するは試験施行上必要なるを以て昨大正五年八月官命を帯び本島黄麻主要産地なる嘉義、臺中、臺南及南投廳下に於ける黄麻栽培調査を遂行せり。以下當場數年來試験せる成績を併せ順次記述せんとす。兩者比較對照せば其間の逕庭甚大なるを知るのみならず本島に於ける黄麻栽培法は將來尙幾多改良すべき餘地あるをも確かめ得べきなり。

本論説く處甚杜撰未だ十分盡さざる點多々ありと雖若し夫れ當事者及當業者の參考ともなり且將來本島黃麻作改良獎勵の方針劃策上參考資料の一端ともなるを得ば余の光榮何者か之に過ぎんや。終りに本論編纂に當り深厚なる同情と好意を以て圖版其他多大の材料と助力とを與へられたる技手澤田兼吉氏に向て謝意を表す。

## 第一章 經濟的位置

### 第一節 由來及產地

黃麻は和名ツナソ、カナビキオ、イチビ本島土名ウンマ(黃麻)ソアンモア(山麻)英名 Jute 又は Gunny Fiber Plant と稱す又 Egypt 及 Syria 地方にては煮食用植物 (Pot herb) として蔬菜に供用するより之を Jew's Mallow とせしむる學名は *Corchorus Capsularis* L. *Corchorus olitorius* L. と稱し田麻科に屬せり。Jute の語源は Sanskrit の Jhat (to be entangled) を英語體に綴字せるもの Gunny は同じく Goni(袋)より來りたるものにして、一七九五年 Dr. Roxburgh 氏 East Indian Co. に送れる書翰中に始めて Jute なる語を用ひたるものなりと云ふ。

黃麻は印度にて古代より之を栽培し來るものなりと雖纖維作物として世界に賞用せらるゝに至りしは實に十九世紀にして一八二八年印度總督の Custom-house Records に始めて之を公にしたるを以て嚆矢とす。如斯を以て黃麻の原産地は之を印度北部地方なりと見做し同地より漸次東遷し馬來人及支那民族によりて栽培せられ、後歐洲に傳播せられたるが如し。即ち一七九三年 East Indian Co. は Pat. の名稱下に種子十噸を英國に送致したるか如き、又一八六九一—一八七〇年米國農務局は印度より種子を輸入し之を South Carolina, Florida, Texas. 地方に栽培を試たるか如き記載によりて

推知するを得べし。而して本島に於ける黃麻栽培の由來又久しくして何れの時代に輸入せられたるや記録の徵すべきものなきを以て明かならずと雖思ふに支那民族の本島へ來往の際支那南部地方より輸入したるものならんか。

現今世界に於ける黃麻産地として有名なるは印度にして就中ベンゴール、東ベンゴール及アツツム地方は印度に於ける主要産地なり其他の栽培地は Brazil, French Guiana, Mexico, Cuba, Jamaica, Africa, Congo, Algeria, Persia, Madagascar, Mauritius, Burma, Ceylon, Celebes, Java, Sarawak, Philippine, Newguinea, Togo, Kamerun, Australia, Malay, Siam, Annam, Cochin China, China, Hongkong 臺灣及日本等なりとす。

### 第二節 用途

黃麻粗製纖維即ち本島在來製造法に依りて得たる纖維は主として索繩用に供せらる。其他粗麻布、黃麻袋(布袋)疊表、莫産類の經系及結縛用として使用せらる。浸水法により得たる精製纖維は麻糸、ツツク及ガンニー袋製織用に供せらる。而して製造の際副産物として生ずる麻程は燃料、松明として或は十日間位浸水乾燥後水煙葦(水を盛れる本島人及支那人の用ふる水煙吹と稱する一種の吸煙器にて吸煙の際煙草の煙は一旦盛れる水中を通過し來る如くに装置せるものなり。本器を用ひ吸煙するには粗紙を適宜捻りたるもの即ち水煙葦に一度點火し置き必要の都度強く吹きて火焰を生せしめマッチの代用に供す)に代用すべく、又之より生ずる灰は懷爐炭及火藥製造用に供せらるゝことあり。其他新葉未だ硬化せざるもの及嫩梢を摘み取り一部本島人之を蔬菜代用として食用に供することあり。又葉を水中にて十分揉み碎き浸出せる液汁を以て男女の頭髮を洗滌し石鹼代用となすことあり。其他外國に在りては穀物類、珈琲、砂糖綿及毛類包裝用袋、粗絨氈、麻布、麻糸、麻

繩、綿糸混合用(漂白後)及紙 (Finest linen Paper) 製造用に供せられ種子は良質の油を搾り油粕は家畜飼料に洪せらる。

第三節 臺灣に於ける黃麻産額

最近五箇年間に於ける各廳別黃麻作付面積産額及纖維概價を示せば次の如し。

(一) 臺灣に於ける黃麻作付面積

廳別	四十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年
臺北廳	一七、一六八	一七、七六六	九、五八〇	一〇、九一七	一〇、七三六
宜蘭廳	一〇、五五五	一六、四六六	三、〇三三	一、六八八	一、六八九
桃園廳	二、八七九	五、〇二二	九、九六六	六、三〇〇	五、九三九
新竹廳	三、三三五	二、〇八九	一、七五二	一、六四五	一、七三九
臺中廳	三、三三五	五、〇七〇	五、六三三	五、六三三	四、八三三
南投廳	一〇、六八三	一、一六三	一、六三三	一、七八三	一、四七二
嘉義廳	五、二六〇	五、八八四	八、三二七	一、二八七	九、八三三
臺南廳	二、四九一	二、九九八	二、〇一六	二、〇一六	二、五〇九
阿緞廳	二、四八二	二、四八四	二、〇一〇	二、五七七	二、四〇九
臺東廳	八、七五	二、五〇	二、〇一〇	二、〇一〇	五、二〇
花蓮港廳	一、四七〇	一、七九〇	二、五〇〇	七、〇〇〇	九、三九〇
計	二、七三三	二、六七六	二、五〇〇	三、〇〇〇	二、六八三
臺灣に於ける黃麻纖維産額	四、六三三	五、五九二	一〇、二一九	二、九四三	三、〇五二

(二) 臺灣に於ける黃麻纖維産額

廳別	四十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年
臺北廳	四、八六五	四、四三三	五、八三〇	九、〇九一	六、五八一
宜蘭廳	一、三九七	一、八四八	一、〇四一	九、九一七	一、〇四七
桃園廳	七、七三三	一、五二〇	一、八八八	二、三二九	八、二八五
新竹廳	一、九八八	二、七二八	三、五三三	四、〇七〇	四、八三三
臺中廳	七、四四五	六、七二八	一、〇一一	一、三三三	一、三三三
南投廳	五、四四五	二、七九九	三、二二二	三、〇一一	三、五七〇
嘉義廳	四、九〇五	四、三三三	二、〇八八	三、六九〇	三、六九〇
臺南廳	二、八五〇	四、〇四九	二、〇一〇	二、〇一〇	三、〇一〇
阿緞廳	一、一八四	一、二二八	五、一四〇	二、六六〇	二、六六〇
臺東廳	三、〇一一	三、〇一一	三、二二二	三、二二二	三、二二二
花蓮港廳	一、一八四	一、二二八	五、一四〇	二、六六〇	二、六六〇
計	三、〇一一	三、〇一一	三、二二二	三、二二二	三、二二二
臺灣に於ける黃麻纖維概價	四、六三三	五、五九二	一〇、二一九	二、九四三	三、〇五二

(三) 臺灣に於ける黃麻纖維概價

廳別	四十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年
臺北廳	一、九一〇	一、八三三	一、八一一	二、三〇一	一、八二二
宜蘭廳	一、三二五	一、五七八	二、〇一七	二、九七七	二、九七七
桃園廳	二、二四三	一、七五八	一、七五七	七、九八一	七、〇一三
新竹廳	六、二二五	六、〇六六	七、〇一〇	九、五九〇	五、五二五
臺中廳	三、五九七	七、八四〇	一、三六八	九、五九〇	五、五二五
南投廳	九、一七四	一、五二六	三、一九五	三、八七四	三、〇一三
嘉義廳	三、四三三	三、四三三	七、一一一	一、〇六〇	八、〇九五
臺南廳	一、五九三	一、四三三	一、七二〇	二、〇三三	三、一三三
阿緞廳	三、九〇〇	二、一五七	二、〇七二	二、七六六	二、七六六
計	三、九〇〇	二、一五七	二、〇七二	二、七六六	二、七六六

臺東廳	一三二六	二〇九	八六一	九七〇	八八〇
花蓮港廳	五四六	八八二	三六九	九六三	七三二
計	一六一九九	二〇六四	三九五	二〇四七	二〇一五

前表中作付面積最も多きは嘉義廳にして臺中廳之に次ぎ臺南、阿緞、新竹、宜蘭及南投廳等相順次せり。以上主産地中廳外搬出額多く且良質纖維産出地として又本島黃麻主要産地として目せらるる嘉義、臺中、臺南、南投、宜蘭及臺北廳下に於ける黃麻栽培地方及産額状態を各廳下堡別に示せば次の如し。

(一) 嘉義廳下に於ける黃麻作付面積

堡別	十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年
嘉義西堡	七五五	七五五	七〇一	一七二六	八三二八
嘉義東堡	二四三	一八三五	一〇一九	二八九三	三六二二
大目根堡	一〇八八	二二六	二二三	二二五	一一三〇
打猫東頂堡	三二五	三三	三三四	八五二	六六五
打猫東下堡	九〇五	六八一	八三三	一五三六	一四四三
打猫南堡	九三四	一九六七	七五三	四六四一	四二五〇
打猫西堡	一六九四	一八九八	二四九三	三〇九〇	四八五一
白沙墩堡	九八六〇	九三六六	一四一五五	一六七七七	一八七二〇
大坵田堡	一六八〇	二九〇九	九七〇	七二八五	二〇四〇
他里霧堡	四〇三六	一七八〇	八九〇	九九九〇	八三三七
斗六堡	四一六九	六一六六	九〇三三	八〇六〇	六八一〇
溪州堡	五九二	一九三三	三六六	二六六九	三三三七
計	五九二	五〇八	一一二	一七二	一八九

堡別	十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年
西螺堡	二六四	二	二七六	三九九	六四九
布嶼堡	二七五	一八八九	一七七〇	二六七五	二九三九
葛松堡	五七四	八八七	六三七	七八〇	一六二七
大棟榔東頂堡	一三八	〇八三	一	一〇一	一〇一
大棟榔西堡	一五二九	三九五	一七三〇	二九六八	三六二四
牛欄溪堡	一三三	三八七	〇七八	三八三	一七〇
柴頭港堡	四九二	一	七八二	一八七六	一九六〇
大棟榔東下堡	一三三	一三二	三六〇	五八五	三四五
鹿仔草堡	一	一	二五五	一七〇	二八六
大坵田西堡	一一〇	〇七七	二九八	六三八	二八六
白鬚公潭堡	一七九五	一九〇五	三二一〇	三三三三	二九六四
龍蛟潭堡	二三五二	四六〇〇	七八二四	一一一三三	七七二八
鹽水港堡	二四三七	二六一六	四六六四	六七一〇	六六〇七
太子宮堡	〇一九	〇五二	〇一〇	六四三	五〇七
鐵線橋堡	一九九	二〇三	一五五	二二二	二六一
哆囉囉東頂堡	五九六	四八二	四三〇	五八一	五三四
哆囉囉東下堡	四九八	二四三	二六四	二八六	二八一
哆囉囉西堡	七四四	三七一	五二〇	七二五	七三六
下茄苳南堡	一九〇二	二七六	一四四三	二五二二	二六九三
下茄苳北堡	一六五〇	一〇九三	一三九二	一四九五	一五二五
計	五二六三〇	五八七八四	八三三六七	一一三六七三	九九八三三

(二) 嘉義廳下に於ける黃麻纖維産額



別	四十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年
嘉義西堡	八〇五元	七八八元	四四三六元	三九二二〇元	九八〇七六元
嘉義東堡	九七〇元	二九〇六元	二九二二四元	四二七四二元	五七四一〇元
大目根堡	八〇〇元	一一九元	一三三三七元	一四五六八元	一七五四三元
打貓東頂堡	三九元	四二四元	三三六七元	七四五四元	七四六五元
打貓東下堡	五三六元	一五二九元	一三三三三元	一八七五五元	一九三六六元
打貓南堡	一五七四元	一五八八九元	八三三〇元	六六八九元	七〇四八四元
打貓西堡	二六三〇元	二五一八二元	四四〇四〇元	二八五五〇元	五五五八六元
打貓北堡	二六九二八元	一三二二三元	三三〇九五元	三二一三三〇元	三三三三三〇元
白沙墩堡	二四三〇〇元	一五七五〇元	九八六三〇元	四八六三〇元	二八八八〇元
大坵田堡	一七五七元	七二四元	九二八八元	四七五七八元	一〇六六〇元
他里霧堡	六三三〇元	九七八七元	九五五七一元	八八五五元	一〇六六〇元
斗六堡	三三六〇元	二九二九元	一九八一元	二五九〇元	二二五元
溪州堡	四三三〇元	二九二九元	一〇五〇元	二二五元	一三六元
西螺堡	五三三〇元	三三〇五元	三三〇八元	一〇三二八元	七三三三元
高松堡	二五九元	一八九八元	一四三六元	一四八三三元	一八四九元
大樺榔東頂堡	一三六〇元	一〇〇元	一〇〇元	一〇〇元	一七四六元
大樺榔西堡	一四〇六元	二七五元	二二八六元	五四七〇元	二四九六元
牛稠溪堡	一九二七元	二九九〇元	三三三三元	七八五元	一七五元
柴頭港堡	九五一元	一〇〇元	五八二〇元	三三〇九元	二六五七〇元
大樺榔東下堡	六二〇元	六二〇元	二〇九〇元	一四九〇元	一四九〇元

鹿仔草堡	一
大坵田西堡	三五〇
白鬚公潭堡	五五二八一
龍蛟潭堡	三三三四七
鹽水港堡	三二〇九六
太子宮堡	二二一
鐵線橋堡	一〇四八
哆囉囉東頂堡	三三〇〇
哆囉囉東下堡	三三三三
哆囉囉西堡	四八三三
下茄冬南堡	一五二〇八
下茄冬北堡	一五八四四
計	七四四五五

(三)

臺中廳下に於ける黃麻作付面積

別	四十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年
藍興堡	一八五〇	一〇〇〇	一五〇五	一五八一	一七三一
棟東上堡ノ内	二七六四	二五〇〇	二二九〇	一六三三	二二五三
棟東下堡	一〇〇五	二五〇〇	二八〇〇	二五四七	一三三四
苗栗三堡	一三二七	一五二一	一〇〇〇	一八一五	一九七一
大肚上堡	八〇〇	一〇〇〇	一〇〇五	九三〇	一一六五
大肚下堡	三〇〇	四〇〇	一	一一五	六五五
貓羅堡	八〇〇	六〇〇	六〇〇	三三三	四二七





善化里西堡 二二六八  
 楠梓仙溪西堡 八三二〇  
 內新化南里 五五〇〇  
 外新化南里 一〇三〇〇  
 新化東里 四九二〇  
 新化北里 一三二〇  
 新化西里 三九〇〇  
 大目降里 四九〇〇  
 廣儲東里 二六〇〇  
 廣儲西里 五〇〇  
 保東里 二九一〇  
 保西里 一六六〇  
 長興上里 七六〇  
 長興下里 三六四〇  
 仁德南里 一〇〇〇  
 仁德北里 一〇〇〇  
 歸仁南里 一〇〇〇  
 歸仁北里 一〇〇〇  
 永豐里 八六〇〇  
 內新豐里 一六五〇〇  
 崇德西里 一〇七〇  
 維新里 一〇七〇  
 嘉祥外里 一〇七〇

二二六八	二〇一五	二二五五	二五二六	二四六六
八三二〇	六三〇〇	七二七〇	九二五〇	八九三〇
五五〇〇	五五〇〇	四四〇〇	四九五〇	五六〇〇
一〇三〇〇	九九二	一一八九〇	一八五二〇	一八〇八五
四九二〇	三三二〇	二二〇〇	二二〇〇	三二二〇
一三二〇	六〇〇	三〇〇	一	一
三九〇〇	五五〇〇	三六〇〇	六六〇〇	六六〇〇
四九〇〇	五五七五	三九七五	九九七五	一一二〇〇
二六〇〇	一九九〇	二六〇〇	二八〇〇	三三〇〇
五〇〇	一	一	一	一
二九一〇	四〇〇〇	二二〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇
一六六〇	一六二〇	二九一〇	三二二〇	三〇九〇
七六〇	一六二〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
三六四〇	一〇〇〇	一一五〇〇	一八二〇〇	二二二五〇
一〇〇〇	二二〇〇	一七〇〇	一八二〇〇	二二二五〇
九〇〇〇	二二〇〇	一七〇〇	一八二〇〇	二二二五〇
九〇〇〇	六五四五	五二一〇	五二一〇	五二一〇
六八〇〇	五四九〇	四〇〇〇	五二一〇	五二一〇
三三八四〇	二二九八	九七〇	七〇〇〇	七〇〇〇
三四五五五	二九九九	二四二二	三〇一五	三〇一五
九〇〇	一五六五	二二八〇	三七一〇	二二〇〇
二七〇	二七〇	四八〇	六八〇	一
三〇〇〇	二二〇〇	一七〇〇	三〇〇〇	一
九〇〇〇	六五四五	五二一〇	五二一〇	五二一〇
六八〇〇	五四九〇	四〇〇〇	五二一〇	五二一〇
三三八四〇	二二九八	九七〇	七〇〇〇	七〇〇〇
三四五五五	二九九九	二四二二	三〇一五	三〇一五

仁壽上里 九〇〇  
 仁壽下里 二七〇  
 觀音上里 三〇〇〇  
 觀音中里 九〇〇〇  
 觀音外里 六八〇〇  
 小竹下里 三三八四〇  
 計 三四五五五

九〇〇	二二八〇	三七一〇	二二〇〇
二七〇	四八〇	六八〇	一
三〇〇〇	一七〇〇	一七〇〇	三〇〇〇
九〇〇〇	六五四五	五二一〇	五二一〇
六八〇〇	五四九〇	四〇〇〇	五二一〇
三三八四〇	二二九八	九七〇	七〇〇〇
三四五五五	二九九九	二四二二	三〇一五
二八一〇	三三〇〇	七三三	三六二〇
三〇三五	二九六六	三九二〇	四九三四
〇五〇	〇二〇	一	一六五
四一五	四四五	四九〇	一一三〇
五二五	五二二	五五〇	五八五
二九〇	三二〇	三六〇	五九〇
五五〇	四四〇	三八〇	五九〇
二八五〇	三二〇〇	三三八〇	四〇九〇
一七六	二九〇	二〇〇	三三〇
一〇六八	二六三三	一六六三	一四一五
計 四〇三〇	二九四〇	一五六三	一四六三

(七) 南投廳下に於ける黃麻作付面積  
 四十四年 大正元年 大正二年 大正三年 大正四年

二八一〇	三三〇〇	七三三	三六二〇	三六二〇
三〇三五	二九六六	三九二〇	四九三四	四九三四
〇五〇	〇二〇	一	一六五	一
四一五	四四五	四九〇	一一三〇	六六〇
五二五	五二二	五五〇	五八五	五九〇
二九〇	三二〇	三六〇	五九〇	五九〇
五五〇	四四〇	三八〇	五九〇	五九〇
二八五〇	三二〇〇	三三八〇	四〇九〇	四〇九〇
一七六	二九〇	二〇〇	三三〇	三三〇
一〇六八	二六三三	一六六三	一四一五	一四一五
計 四〇三〇	二九四〇	一五六三	一四六三	一四六三

(八) 南投廳下に於ける黃麻纖維產額  
 四十四年 大正元年 大正二年 大正三年 大正四年

四〇三〇	二九四〇	一五六三	一四六三	一四六三
------	------	------	------	------

北投堡 北港溪堡 埔里社堡 五城堡 集集堡 沙連下堡 沙連堡 鯉魚頭堡

(八)

北投堡	八二四九四	八六七六四	七七八五五	一〇〇,〇〇〇	一六四,五〇〇
北港溪堡	六二八	二六四	一	七,〇〇〇	一
埔里社堡	一三,二〇〇	二,二七〇	一四,四六四	二六,五五〇	一七,七二二
五城堡	一三,九〇〇	一三,四〇一	一五,九〇〇	一〇,二〇〇	一六,六〇〇
集集堡	三,四八〇	三,八四〇	四,三三〇	一〇,五〇〇	二二,九〇〇
沙連下堡	二一,〇〇〇	一七,〇〇〇	二一,九〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇
沙連堡	三,一六〇	四,一五〇	五,一〇〇	八,一〇〇	九,二二七
鯉魚頭堡	四,〇〇〇	四,三三〇	二,三〇〇	六,三三〇	四,〇〇〇
計	一九八,八二六	一九七,一八四	三三三,三三二	四二〇,七〇〇	四四八,五九九

(九)

宜蘭廳下に於ける黃麻作付面積

北投堡	四十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年
北投堡	一〇,一〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
北港溪堡	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
埔里社堡	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
五城堡	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
集集堡	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
沙連下堡	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
沙連堡	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
鯉魚頭堡	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
計	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇

頭圍堡 本城堡 員山堡 浮洲堡 清水溝堡 紅水溝堡 羅東堡 利澤簡堡 茅仔寮堡 二結堡 民壯圍堡 四圍堡 頭圍堡

(一)

宜蘭廳下に於ける黃麻纖維產額

頭圍堡	四十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年
頭圍堡	九七六	九六六	八〇〇	一〇,〇〇〇	九七九
本城堡	七,一三〇	九,九〇〇	五,七〇〇	四,〇〇〇	七,五〇〇
員山堡	九,一〇〇	九,二〇八	一一,二〇〇	六,七七八	九,九八八
浮洲堡	二九,〇〇〇	二七,五一〇	四一,三三八	二七,七〇〇	一八,四二二
清水溝堡	一八,三六一	一七,三〇一	一四,三三八	一四,九六七	一五,八五四
紅水溝堡	三,三三三	二,五八八	二,七八四	二,五二四	二,六四二
羅東堡	三,四三八	三,一八八	一,五七五	一,五〇七	一,四四八
利澤簡堡	三,四三〇	三,一〇〇	四,二八四	一	一,四七〇
茅仔寮堡	二,四〇〇	二,四三〇	三,三三〇	一	二,三〇〇
二結堡	二,四〇〇	二,四三〇	三,三三〇	一	二,三〇〇
民壯圍堡	二,五〇八	三,七一五	二,八九二	二,八九二	三,二五八
四圍堡	一〇,八四五	九,二四〇	九,四八九	七,四四六	六,九九二
頭圍堡	九,八六四	九,五五四	八,〇〇〇	六,七九六	一〇,九〇四
計	二九九,四二二	三〇八,一六三	四三三,一〇六	二八九,〇五七	四四一,五〇五

(二)

臺北廳下に於ける黃麻作付面積

大加納堡	四十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年
大加納堡	一,〇四一	一,七四七	一,七五三	一,五七三	一,四八二
羅接堡	二,四〇一	二,四〇八	一,六四七	二,二一六	二,二六三
計	三,四四二	四,一五五	三,四〇〇	三,七八九	三,七四五

興直	六六五
八里空堡	一
芝蘭一堡	一五二八
芝蘭二堡	四八八四
金包里堡	一
文山堡ノ内	四九〇
計	一七三六八

(三) 臺北廳下に於ける黄麻纖維産額

堡別	四十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年
大加納堡	二二四八	二八二六	二二八二	二二八〇	二二八〇
擺接堡	五四二五九	五三三九八	四一三三五	五三六七三	五三二八
興直堡	三三三〇五	一九一二五	四二二七四	三三三〇〇	三三三〇〇
八里空堡	一	七五〇	一三六〇	九三三	一〇二〇
芝蘭一堡	三三〇一九	三〇七二九	六四三六四	九四三〇一	七五九一三
芝蘭二堡	七三八五	三三四一〇	二八七三四	五二八八	三八〇
金包里堡	一	一	一	三三九〇	一〇九
文山堡ノ内	二二一〇	二二二〇	二二八五〇	四二〇〇	四七五
計	四一六二二	三五九一九	二〇一三九	二二四四一	二二四四一

次に参考のため内地及英領印度に於ける黄麻作付面積及産額を示さん。  
(三) 大正四年内地に於ける黄麻産額

地方名	作付段別	收穫高	段當收量	價額	一貫の價格
三重	二六	一八八	四九・四三三	九・一一	〇・五二
愛知	三三	一四一五	五五・七八一	六・三九	〇・五二
静岡	七六	二七七一	二七・六四八	一一・三九	〇・五二
岐阜	〇二	三〇	一〇・〇〇〇	二	〇・五二
青森	七五	二二五〇	一〇・〇〇〇	一・五〇	〇・五二
島根	〇二	五	二・〇〇〇	一	〇・五二
島根	一四	八二	五・二二五	一〇	〇・五二
和歌山	〇五	三〇	六・〇〇〇	一三	〇・五二
徳島	一五	一五	一〇・〇〇〇	二〇	一・〇〇
香川	〇二	九〇	四・〇〇〇	四	〇・五二
愛媛	一三	一〇九五	八・二三三	三三	〇・五二
高知	四〇	二〇四〇	五・七五〇	一・二六	〇・五二
福岡	五〇	一八七三	三・六八七	九・三六	〇・五〇
大分	一六	七九〇	二・九三三	二・六二	〇・五五
佐賀	一七	七九〇	四・四二二	四・三〇	〇・五二
熊本	一四	七二二	五・一〇七	三・一一〇	〇・四七
宮崎	四九	二六〇四	五・一九五	八・三二	〇・三〇
鹿児島	四一	一八四七	四・四三七	一一・六五	〇・五二
長崎	一八	三三三	八・〇五三	七五	〇・一一〇
計	五〇〇	三三九四	四八・六六	一一・六五	〇・五二

備考 黄麻は内地に於て古くより九州地方に栽培せらるゝ雖統計に公表せられたるは第三十二次農商務統計表を以て嚆矢とす

す而して前表示すか如く青森、鳥取及島根の三縣下にて之を栽培するは甚疑ひなき能はざるも統計表のまゝ之を掲載せり。

(四) 英領印度に於ける黄麻作付面積及産額

年 號	作付面積(英町)	産額(ハンドレット)
一九〇一—〇二年	二二,三三八〇〇	二六,六四三,〇〇〇
一九〇二—〇三年	二二,四一七,〇〇〇	二六,八八九,〇〇〇
一九〇三—〇四年	二二,七五〇,〇〇〇	二七,八六一,〇〇〇
一九〇四—〇五年	二二,八九七,〇〇〇	二八,四九〇,〇〇〇
一九〇五—〇六年	二二,八三〇,〇〇〇	二八,〇五五,〇〇〇
一九〇六—〇七年	二二,八二九,〇〇〇	二八,八〇〇,〇〇〇
一九〇七—〇八年	二二,九七四,〇〇〇	二九,〇四四,〇〇〇
一九〇八—〇九年	二二,八五七,〇〇〇	二八,六四四,〇〇〇
一九〇九—一〇年	二二,七八一,〇〇〇	二八,〇〇〇,〇〇〇
一九一〇—一一年	二二,〇〇〇,〇〇〇	二六,〇〇〇,〇〇〇

第四節 需要供給

輓近本邦に於ける産業界の顯著なる發展に伴ひ輸移出入米麥其他包装用カンニ一袋を必要とする産物激増し、本島黄麻栽培の將來大に有望となるや本島内外の企業家有志者等しく注意を喚起するに至れり。然るに前述せる如く本島黄麻産額平均四百萬斤價額二三十萬圓内外にして僅かに對岸支那地方へ三萬斤内外價額千圓の輸出あるのみにして其他は悉く索繩、布袋、粗麻布及雜用として島内に消費し盡さる。如斯を以て臺灣製麻會社の如き島内産纖維を利用し比年増加するガンニ一袋の

需要を充たさんことを劃策し、努力大に勉むと雖島内産額の増加せざると再製法煩瑣にして且纖維の品質輸入品に劣る關係上之が供給を年々海外(主に英領印度)の輸入に待たざるべからざるの現況なり。左に輸移出入額を示さん。

(一) 輸移出額

年 次	輸出黄麻(麻皮)		移出黄麻(麻皮)		輸移出價額合計
	數量	價額	數量	價額	
四十年	一四九〇斤	六八七	二〇〇斤	一五四	八三三
三十九年	八九七四	三六七	二五八	九〇	四七七
三十八年	二〇六六四	一〇九五	—	—	一〇九五
三十七年	五九七	三二	四〇〇	—	三三二
三十六年	二二八	一五	二〇〇	—	三三二

備考

輸出先は多く支那にして移出先は東京横濱及神戸等なり。

前表に依れば本島黄麻及之が製品輸出状況甚不振にして到底一産物として之を論ずるの價値なしと雖現今本島に於ける黄麻纖維及製品の需要状態より觀察せば輸移出額の多きを望まんより寧ろ島内産額の増加と品質の向上に力を注ぎ以て輸移入額を防遏するを先決問題なりとす。

(二) 輸入額

年次	黄麻		ガンニ一袋		故ガンニ一袋		黄麻布	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
四十四年	七〇,五四六	七〇,二一八	一七,九七〇	四二,四三三	一四,一三六	二一,七八三	二五,九〇三	一三,九〇三
大正四十四年	八四,一九九	六二,三六六	三三,五七五	八三,一九〇	九,八五六	一三,一〇六	三九,四三三	二四,九七三
同三十二年	一〇,四七三	九,五六一	一〇,九七〇	三〇,五二六	五,五八二	七,一六五	三六,二九三	一〇,六〇一
同三十四年	一一,六八七	一一,五七四	四,八四〇	一三,四三七	四,三二七	五,一七五	四二,一九四	二二,七六七
同三十八年	二六,一八七	二九,四三三	五,八九七	一五,八八九	六,七五八	一〇,六一一	五七,四八九	二〇,七〇四

(三) 輸移入額

年次	輸入黄麻袋		輸入故黄麻袋		輸入價		移入ガンニ一袋		輸移入	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
四十四年	二〇,〇三三	一六,二一七	一四,一四〇	六,三三〇	五,四六六	一七,七六八	一,七七八	六,六四三	二,一四三	六,六四三
大正四十四年	二六,〇六〇	一六,八九七	一六,〇	九	一〇,四三三	二二,七三三	一,〇四三	四,一九三	一,〇四三	四,一九三
同三十二年	二六,三三三	九,九三四	〇	〇	四,五九九	一〇,三二九	二,四八四	六,六八九	二,四八四	六,六八九
同三十四年	八,四五一	七,九七一	一	一	二,九〇二	七,五五七	一,八九〇	四,七八七	一,八九〇	四,七八七
同三十八年	二九,五三〇	一〇,一八四	一,五三三	六三	四,九八三	五,四七〇	一,四二七	六,七五八	一,四二七	六,七五八

備考 黄麻及ガンニ一袋の輸入先は英領印度海峽殖民地及支那にして黄麻袋及黄麻布は支那より輸入す。内國産移入製品は多くは天津鹿沼等に工場を有する帝國製麻會社攝津都賀濱に印度麻製造工場を有する小泉合名會社の製作に係るものとす。

前表に依れば黄麻及之が製品輸移入額年々四十萬圓乃至六十萬圓内外を上下し、原料黄麻にありては年々増加の傾向を示せり。而して該原料纖維は殆んど臺灣製麻株式會社に於て消費せらるゝものにして、同會社は尙本島産幼、粗麻をも再製消費し、以て本島内外に於ける需要を充たしつゝ、あるも、尙不足を告げ之を島外輸移入に待たざる可らざる状況なり。如斯状態なるを以て直ちに將來を斷すること能はずと雖殖産業の過去及現在に於ける膨張發展に鑑み之と密接なる關係を有する黄麻の將來に於ても急激なる供給増加又は需要減退等特殊なる原因他になくは現在より以上の發展をなさざるべからざるは疑ふを要せざる處なり。殊に本島に於ける黄麻栽培の幼稚なる尙幾多改善を要する餘地綽々たる現況なるに於てをや。故に當業者は之等の諸點に著眼し從來の製造法を改革すると共に、優良品種の栽培を普及し以て産額の増加を企圖するに至りては輸入品を防遏するのみならず、從來の製法と同等或は以下の生産費を以て約倍額或は以上の生産物を獲得し得るの利益あるに於てをや。左に參考のため最近十箇年間に於ける英領印度の輸出額を示さん。

(四) 英領印度に於ける輸出額

年次	数量(ハンドレット)	價額(留比)
一八九九—一九〇〇年	九,七五三,四四五	八〇,四一四,四三〇
一九〇〇—〇一年	一一,四一五,五三三	一〇,八六七,七五〇
一九〇一—〇二年	一四,九七三,一一五	一一,七九七,七三〇
一九〇二—〇三年	一七,〇三六,八六六	一一,一七三,九四〇
一九〇三—〇四年	一五,七一一,四七四	一一,一八一,一三〇
一九〇四—〇五年	一八,七五三,一一一	一一,六六六,四六〇
一九〇五—〇六年	一五,八〇〇,〇七	一七,二五六,六四〇



一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年	一九〇八—〇九年	一九〇九—一九一〇年
一五九七〇四八	一四二九二五九	一七三四〇〇〇	一八九四五五〇
二六八三六八二〇	一七三三八〇〇		
二四			
最高價額(英磅)	最高價額(英磅)	最高價額(英磅)	最高價額(英磅)
一九〇六年	一九〇七年	一九〇八年	一九〇九年
二八、八分ノ五	二七、二分ノ一	一九、二分ノ一	一五、八分ノ一
最低價額(英磅)	最低價額(英磅)	最低價額(英磅)	最低價額(英磅)
一九〇六年	一九〇七年	一九〇八年	一九〇九年
一九、二分ノ一	一四、二分ノ一	一四、四分ノ一	一二、四分ノ三
一九一〇年			一三、八分ノ五

次に参考のため最近五箇年間に於ける英國ロンドン市場の黄麻纖維一噸の價額を示さん。

### 第三章 黄麻の特性及品種

#### 第一節 性 状

黄麻 (Corchorus capsularis L.) は田麻科に属する一年生草本にして莖稈の内部には柔軟なる木質部を有し表皮の韌皮部中には稍強き光澤ある纖維を有せり。直立圓柱形にして地上部の大きは直徑三四分乃至六七分なり。

成熟後に於ける草丈は各品種により差異あるも普通八九尺乃至一丈にして長きものは一丈四五尺に達することあり。何れも稍端部に至り枝極を分岐し莖稈の色は品種により青綠色、紅色淡紅色及深紅色等の別あり。數多の綠葉を互生す。葉は披針形若しくは長楕圓形にして長さ一〇—二五幅三—六センチメートルあり。先端尖銳基部圓く支脈は七乃至九本にして縁に鋸齒狀缺刻を有し、長さ一五—二五ミリメートルなる葉柄により莖稈部に著生せり。而して葉片の基部葉柄部に附著する附

近より左右兩側に各一條宛長さ五—七ミリメートルを有する鋸齒の著しく變化せる鬚狀體を分出せり、之れ他植物に多く類例なく本作物固有の一特徴なりとす。托葉は線形にして長さ五—一〇ミリ

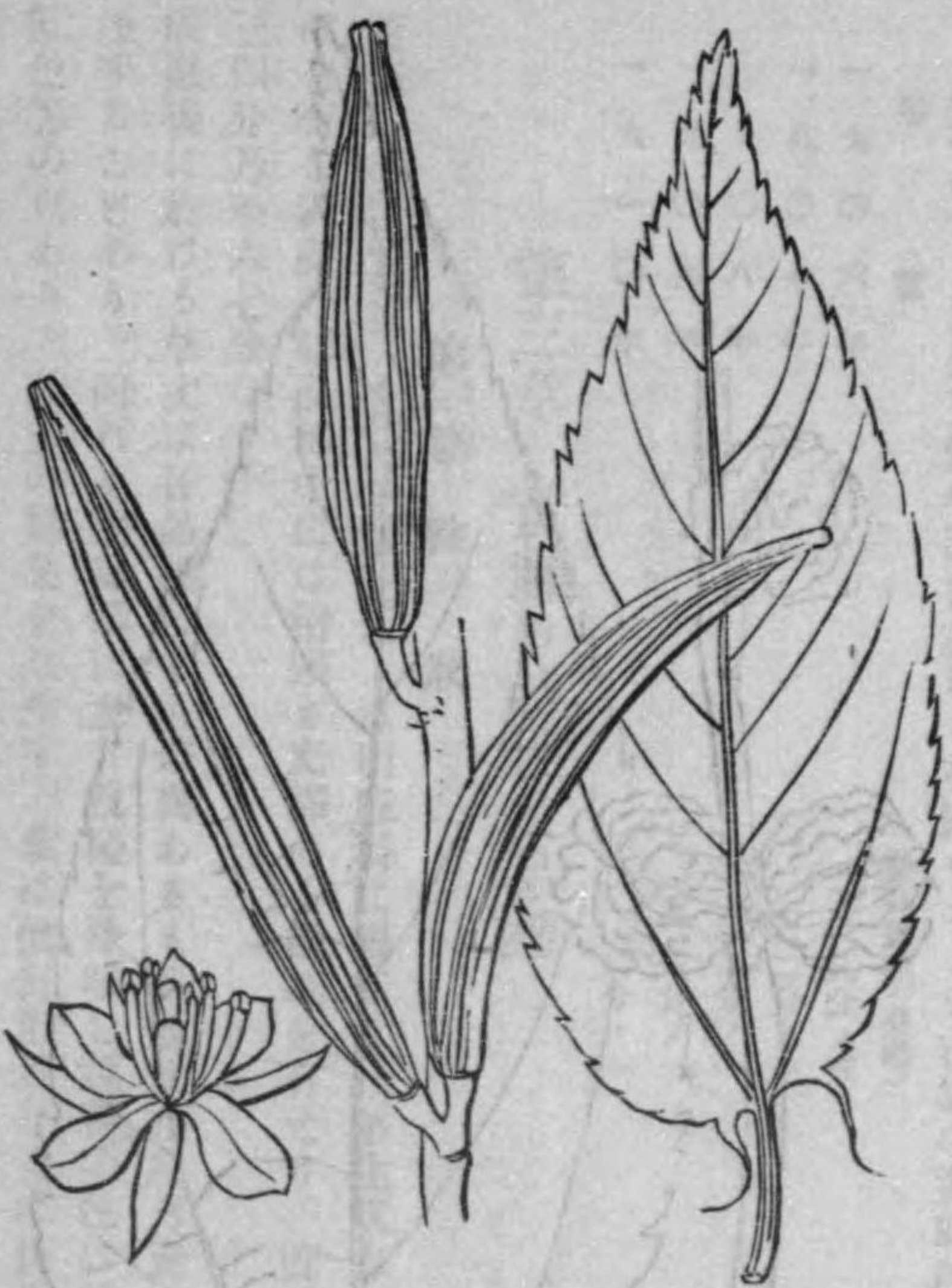


Corchorus capsularis L.

メートルを有し葉柄の莖部に相對して著生す。花は小形黄色にして莖稈稍端部に分岐せる枝楹上の葉腋より出て單或は一二分枝し、極めて短き

花梗を以て簇生す、萼は五片帯緑黄色長披針形にして縦に紫條を入れ、長さ四幅一、五ミリメートルあり。

二六



*Corchorus olitorius* L.

乃至十二條の不規則なる疣状隆起線あり長さ一〇幅一〇—一二「ミリメートル」にして一蒴果中に三十乃至五六十粒の光澤ある暗褐色の種子を包藏せり。

花弁は五片萼と互生し黄色にして楔状頂端圓く稍波状をなし、基部に向つて漸次細く長さ五幅二、五ミリメートルあり。雄蕊は五箇花弁と互生し長さ二ミリメートル花糸は少しく灣曲して黄色頂端二胞よりなる葯を著く。子房は球形にして高約一「ミリメートル」あり、花柱は頂端分岐することなく長さ約一「ミリメートル」あり。蒴果の形状は恰も兩端より押し潰したるが如き形状を呈し、縦に十

葉柄、托葉鬚状體及蒴果の色は品種により青綠色、紅皮深紅色及暗紫紅色等の別あり。而して種子成熟するに至れば蒴果又淡黄褐色に變化するものとす。

以上の外別に長莢種 (*Corchorus olitorius* L.) あり前種に比し莖稈細長く表皮薄く綠色及淡紅色を呈す。葉は互生し形状大さ等殆んど前種と同様にして唯支脈の數九乃至十一あるを異にするのみ。托葉又前種と同一にして青白色を呈するものと深紅色を呈するものと二種あり。花梗は長さ二ミリメートルあり單又は一二分枝を有せり。花は黄色にして萼は五片青色或は紫色の斑點を有するものあり。形状披針形にして頂端尖銳長さ五—五、五幅一、五「ミリメートル」あり。花弁は黄色にして長さ五箇花弁と互生し花糸は黄色にして長さ三—三、五「ミリメートル」あり。頂端に二胞よりなる葯を著生す。子房は長隋形にして長二ミリメートル花柱は長さ一—一、三「ミリメートル」あり。蒴果の形状眞直なるか或は稍灣曲し紡錘状又は圓柱状にして十乃至十四條の隆起縱線を有し中間凹所に紫紅色の縱線を有するものと否らざるものとあり。而して隆起線の頂上面滑ならず蒴果の長さ三五—六五幅六一—七ミリメートルにして先端尖銳となりに小形濃藍色の種を包藏せり。一蒴中の種子百八十乃至二百粒とす

第二節 纖維の性状

黄麻の纖維は灰褐色にして光澤に富み他の植物纖維に比し紡績に容易なるの利あれども耐久力に乏しく水濕により速かに腐朽し否寧ろ普通の状態に於ても日を経るに従ひ漸次脆弱となりて其の強度を失ふの缺點あり。而して漂白劑に對する抵抗力強きが故に未だ純白に漂白せらるゝの方法なし。黄麻纖維細胞は長さ一・五耗乃至五耗ありて其中二〇乃至二五ミユウあり外觀圓形若しくは多角

二七

形にしてルイメンは大きく従つて細胞壁は薄し。市場に販賣せらる、精製繊維は六乃至二十の纖維束より成れり。

黄麻纖維は亞麻苧麻の如くセルロースにあらずしてグノセルロースにして其の化學的反應は兩者自ら相違あり。

試薬名セルロース リグノセルロース  
 硫酸沃度液青色 黄色乃至褐色  
 硫酸アニリン及硫酸變化なし 深黄色  
 鹽基性染料染色す 染色す  
 弱酸化學劑變化なし 速かに分解  
 シュワイツェル氏劑溶解 膨脹して青色となり漸次溶解す  
 而して纖維の化學的成分は左の如し

成分	精製纖維
灰分	九、六四
水分	一、六三
浸出物(水)	〇、三二
油蠟	六三、〇五
纖維素	二五、三六
包被物	

第三節 分類及品種

現今當場にて栽培中の黄麻十五品種に就き蒴の形状、色、莖稈及葉柄の色熟期の早晚等最も單一なる方法に依り分類せば次の如し。

- (壹) 球莖種 *Corchorus capsularis* L.  
 和名 シナン、カナキオ、イナロ
- (一) 球莖種 (*Corchorus capsularis* L.)  
 (A) 蒴 莖稈及葉柄の色深紅色を呈するもの  
 (イ) 早生 早生赤 (舊名 アトリ、レッド)  
 (ロ) 中生 中生赤 (舊名 カブスラリス)  
 (ハ) 晩生 深紅皮種 晩生赤 (舊名 レート、レッド)  
 (B) 蒴、莖稈及葉柄の色淡紅色を呈するもの  
 (イ) 早生 紅皮種 (舊名 紅莖種)  
 (ロ) 晩生 淡紅皮種
- (C) 蒴、莖稈及葉柄の色綠色を呈するもの  
 (イ) 早生 早生青 (舊名 アトリ、グリーン)  
 (ロ) 中生 印度青皮種 (舊名 印度白皮種)  
 (ハ) 晩生青 (舊名 レート、グリーン)
- (D) 蒴及葉柄色稍紅色を呈し莖稈綠色を呈するもの  
 (イ) 早生 青皮種 (舊名 白莖種)  
 (ロ) 中生 爪哇青皮種 (舊名 爪哇白皮種)
- (二) 短形種 (*Corchorus capsularis* var. *ocarpus*)

(A) 蒴 莖稈及葉柄の色緑色を呈するもの  
 (イ) 早生 早生短莢青種  
 (ロ) 晩生 短莢青種  
 (B) 蒴に縦紫紅線を有し莖稈及葉柄淡紅白色を呈するもの  
 (イ) 早生 長莢斑縞種 (舊名なし)  
 (イ) 早生 長莢青種 (舊名 オトリリヤス)

(武)  
 長莢種 *Corchorus olitorius* L.  
 和名 シマツナン

以上の外更に細部の諸特性を加へ表示せは次の如し。  
 品種別特性一覽表

品種名	莖稈色	收穫時 の草丈	葉柄の色	葉片 の色	托葉 の色	莖 の芽 度	蒴 の 形 状 及 色	熟 期 の 早 晩	種 子 の 色
淡紅皮種	淡紅色	一〇三	紫紅色	淡紫紅色	青白色にし て先端褐淡	なし	扁圓形頂 端	晩生	光澤ある暗
深紅皮種	深紅色	一〇三	深紅色	淡紫紅色	淡紅色にし て先端褐淡	なし	扁圓形頂 端	晩生	光澤ある暗
印度青皮種	青綠色	一〇三	青綠色	同	青白色にし て先端褐淡	十分發達し	扁圓形頂 端	中生	光澤ある暗
爪哇青皮種	青綠色	一〇六	濃紫紅色	同	淡紫紅色の 斑點あり	十分發達し	扁圓形頂 端	中生	光澤ある暗
早生青	暗紫紅色	一〇五	濃紫紅色	淡紫紅色	淡紫紅色の 斑點あり	同	扁圓形頂 端	早生	同
早生赤	暗紫紅色	一〇五	濃紫紅色	淡紫紅色	淡紫紅色の 斑點あり	同	扁圓形頂 端	早生	同

品種名	莖稈色	收穫時 の草丈	葉柄の色	葉片 の色	托葉 の色	莖 の芽 度	蒴 の 形 状 及 色	熟 期 の 早 晩	種 子 の 色
晩生赤	暗紫紅色	一〇七	濃紫紅色	淡紫紅色	同	同	扁圓形頂 端	晩生	同
晩生青	青綠色	一〇六	青綠色	青白色	同	同	扁圓形頂 端	晩生	同
短莢青種	青綠色	九六	青綠色	青白色	同	同	扁圓形頂 端	晩生	同
早生短莢青種	青綠色	九三	青綠色	青白色	同	同	扁圓形頂 端	早生	同
紅皮種	紅色	八九	暗紫紅色	淡紫紅色	淡紅色にし て先端褐淡	十分發達し	扁圓形頂 端	早生	同
青皮種	青綠色	八七	淡紫紅色	同	深紅色の 斑點あり	十分發達し	扁圓形頂 端	早生	同
中生赤	暗紫紅色	九二	暗紫紅色	同	深紅色の 斑點あり	十分發達し	扁圓形頂 端	中生	同
長莢青種	青白色	一〇九	淡紅白色	青白色	同	同	長形頂 端	早生	同
長莢斑縞種	淡紅白色	一〇八	淡紅白色	同	同	同	長形頂 端	早生	同

備考 收穫當時の草丈中短莢青種、早生短莢青種及長莢斑縞種は二箇年平均其他の品種は五箇年平均數を示せるものなり。  
 莖稈の色は葉柄の色と相一致するを以て之を省略せり

第四節 本島に於ける品種の分布

前項に述べたる品種の多くは主産地たる印度及爪哇地方より種子を取り寄せ本島普通在來種と比  
 較し之が優劣を試査し以て本島黃麻改良の資料に供せんがため當場にて數年來試作し來れるもの  
 して各地希望者に少量宛配布し來れるを以て各地に散見するを得べし。而して全島各地に分布せる  
 品種の最普通なるは紅皮種及青皮種にして稀に深紅皮種及淡紅皮種の二品種をも栽培せらる。次に  
 明治三十九年以來各地に配布せる數量及品種を示し以て本島に於ける之等品種の分布状態を明にせ  
 んとす。

地名	淡紅皮種	深紅皮種	印度青皮種	爪哇青皮種	早生赤	早生青	晚生青	晚生赤	青短種	紅皮種	青皮種	中生赤	青長種
基隆	0.85	0.85	0.05							0.010			
台北			0.05							0.050			
宜蘭										0.050			
桃園	0.100	0.010	0.010							0.050			
新竹	0.050	0.010								0.050			
中投	0.110	0.100								0.010			
嘉義	0.210	0.210								0.100			
台南	1.110	0.210	0.100	0.050		0.050				0.100			
阿緞	0.020		0.010										
臺東	0.100												
花蓮	0.020	0.010											
恒春	0.015	0.010								0.005			
澎湖	1.000	0.010	0.015	0.020		0.020				0.020			
計							0.020			0.020		0.020	0.115

第四章 天然的要素  
第一節 氣候

黄麻は元來熱帯地方の原産なるを以て氣候温暖なる地方よりも寧ろ高温且生育期中屢々降雨ある地方最も生育に適合するものなり。即ち之が實例として見るべきは當場に於て主産地なる印度より種子を取寄せ試作の結果成績良好結實又佳良なるを實驗せり。然るに同一品種或は本島在來種を内地九州地方に之が栽培を行はんに内地在來品種に比し草丈長く收量多きも結實不十分にして之が栽培を繼續せんと欲せば年々種子供給を本島に仰かざるべからざる不便あるを確めたり。之を以て本島は氣候温和なる内地に比し黄麻栽培に適合せるを知るべく世界の一大主産地たる印度ベンゴールと本島との氣象を比較するに次の如し。

毎月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
温度	18.2	18.5	18.1	18.6	19.2	20.1	20.8	21.5	22.1	22.7	23.1	23.5
雨量	11.2	11.6	12.3	13.0	13.9	14.9	15.9	16.8	17.7	18.5	19.1	19.6
温度	16.0	15.2	14.2	13.1	12.0	11.0	10.0	9.0	8.0	7.0	6.0	5.0
雨量	19.6	19.1	18.7	18.1	17.4	16.6	15.7	14.7	13.6	12.4	11.2	10.0

之れによりて見れば氣象要素の彼此甚だ酷似せるを見る。殊に印度本島共に之れが栽培期間は三四月より八九月にありて此の間に於ける温度及雨量の相似たる如何に本島に於ける黄麻栽培の適するかを推知するに難からざる可し。

### 第二節 地形及土質

黄麻の生育期中或は收穫期に際し屢々暴風の襲來する地方は防風及風力を緩和し得る地形の土地を選定するにあらざれば之れがため生育を阻害せられ且つ收量を減する等不慮の損害を招くことあるを忘るべからず。而して之が栽培に最も良く適合する土質は稍黒色を帯へる排水良好なる土地にして灌溉に便なる表土深き肥沃なる粘質壤土若しくは壤土とす。水田を排水し或は緩傾斜地にして濕潤なる土地亦不可ならざるも砂礫多き土地乾燥甚しき砂質地及灌溉に不便なる土地を黄麻栽培に不利益なる土地なりとす。

## 第五章 臺灣主要産地に於ける黄麻栽培方法

本島各主要産地に於ける黄麻栽培法を調査するに其地勢、土質を異し灌溉の便否、栽培作物の種類、或は地方的習慣を異にするに從ひ各地多少其趣を異にす。殊に嘉義廳下嘉義西堡湖仔内庄、柳仔林庄、崎仔頭庄、下路頭庄及車店庄地方は臺中廳下北斗、員林地方と共に本島優良黄麻産地として知られ、之が栽培法に至りては唯普通耕種法に因るものと思惟し一般世人の注意を喚起するに至らざりしも調査の結果殆んど水稻栽培法に於けるが如き特殊の栽培方法をなせり。然れども之れ一

地方に限られたる方法にして全島を通じ之が栽培法を區別せば畑作法、乾田作法及水田作法の三種となすを得べし。即ち畑作法は畑地に栽培し乾田作法は田畑相半し多少稻作をも行ひ得る看天田に水田作法に至りては全然稻作(第一、二期共)を行ひ得らる、水田(嘉義西堡の如き)に栽培するもの之なり。今各主要産地に於ける栽培を調査するに各地とも雜駁粗放にして一般耕作法、製造法及品種改良等尙幾多の指導改良を要する諸點數多あるを認む然して各地に於ける栽培者は異口同音に『黄麻收益は甘蔗及其他の作物に比し決して劣るに非ざるも製造に多大の費用を要すと嘆するも以上の諸點を改善向上せしむるのみにても尙本問題を解決するに十分なるべく製造費を低減するが如きは決して至難事にあらざるなり。

### 第一節 當場に於ける黄麻栽培法

- (一) 地形及土質 臺北廳下に於ける黄麻主産地は與直堡其首位を占め芝蘭一堡擺接堡等相順次し大加蚋堡第四位にして當場所在地たり。當場は東面に山陵を負ひ南北は平坦開豁にして臺北平原に連り瑠公圳場内を貫流し灌溉甚だ便なり試験地の土質は強粘土にして第四期新層河成沖積土に屬せり。
- (二) 品種當場試作に係る品種は前章分類の條下に記述せるを以て當場に於ける各品種栽培の由來を左に示さんとす。

品種名

栽培の由來

深紅皮種、淡紅皮種

二品種共明治四十年九月臺北廳大加蚋堡下内埔庄陳廷永の栽培せる黄麻中に混在しあるを發見し、草丈高く分枝最も少く兩品種の特徴顯著なるもののみを選別採種し、翌四十一年四月より當場にて栽培繁殖し以て今日に及べるものなり。

印度 青皮種 明治四十三年二月印度アサ農事試験場より輸入し當場にて栽培繁殖せるものなり。  
 爪哇 青皮種 明治四十三年一月爪哇ポイテンシラ植物園より輸入し爾來當場にて栽培繁殖せるものなり。  
 早生赤、早生青 以下四品種共明治四十三年五月印度カルカッタ領事を煩はし Office of the fiber expert to the Govt. of E. B. & Assam. の手を経て「ベンゴール」産のもの輸入し當場にて栽培繁殖し今日に及べり。  
 晩生赤、晩生青 大正二年四月印度ベンゴール産のものを Office of the fiber expert, Inacca. の手を経て輸入し當場にて栽培繁殖せるものなり。  
 短 莖 青 種 前種中特に開花結實の早きもの一莖あるを發見し之を原種となし大正三年以來當場にて繁殖せるものなり。  
 早生短莖青種 本島在來品種にして明治三十六年當場割立當時臺北廳錫口地方に栽培せるものを取り寄せ當場にて栽培繁殖せるものなり。  
 紅 皮 種 紅皮種と同じく本島在來種にして明治三十八年新竹廳下より取り寄せ當場にて栽培繁殖せるものなり。  
 青 皮 種 從來單に「カプスリス」を稱し來れるものにして明治三十五年殖産局より印度ベンゴール産のものを配布せられ當場にて栽培繁殖し來たるもの。

中 生 赤 種 從來單に「オトリアス」を稱し來れるものにして中生赤と同じ。  
 長 莖 青 種 長莖青種中に混在しあるものを發見し爾來當場にて栽培繁殖し來るものなり。  
 長 莖 斑 結 種 長莖青種中に混在しあるものを發見し爾來當場にて栽培繁殖し來るものなり。

- (三) 輪栽法 當場に於ける輪栽法は試験地に限りあると試験作物の多數なる關係上普通農家の如く跡地を直に利用すること能はず。故に年一回作を行ひ跡地を休閑せしめ翌年に於ける他作物試験用地に充てざるべからざるを以て黃麻輪栽の必要を認め且之が理想的輪栽法を實施し得ざる所になり。然れども連作を避け多くは落花生、甘藷、アロールート、キャツサバと二年乃至三年一回の輪栽を行へり。
- (四) 整地 十月乃至十一月頃前作物收穫跡地を二頭牽犁にて犁耕し置き風化作用を十分ならしめ播

種三十四日前刈肥或は「アクメ、ハロー」にて土塊を碎き元肥(煙骨)を圃地面に均一に撒布し「ブウラ」にて第二回犁耕を行ふ元肥十分腐熟するに至れば刈肥にて土塊を碎き第三回犁耕及耙耕を行ふ。斯くして播種二三日前第四回犁耕及耙耕をなし手耙にて地面を均一ならしめ鋤にて作條を切り以て播種の準備を調ふ。

(五) 肥料 黃麻に對する肥料效果の顯著なること多く他作物に例小なきのみならず吸收率の多きこと殆んど施用量の最上限度を疑はしむる程なり。故に一般農家にありても經濟の許す範圍に於て可成多量の施肥を必要とするものなり。左に當場に於て紅皮種に就き明治三十七年より同四十年に至る四ヶ年間に互り施行せる肥料試験成績を示さん。(當場發行農事試験成績第二、三、四の二及五の二報參照)

自明治三十七年累年反當粗纖維(幼麻)收量  
至同四十年

試 驗 別	三十七年	三十八年	三十九年	三箇年平均	平均收量列次
無 肥 料	三六、七〇〇	五三、〇〇〇	五〇、八五〇	四三、八三三	一
普通肥料五割減	四四、七〇〇	八〇、〇〇〇	七四、四〇〇	六六、三六七	二
普通 肥 料	五七、八〇〇	八九、〇〇〇	八七、五〇〇	七六、五七七	三
普通肥料五割増	五九、〇〇〇	九三、六〇〇	一〇〇、五〇〇	八四、三三三	四
普通肥料二倍	六二、六〇〇	一〇五、〇〇〇	一一一、五〇〇	九三、〇〇〇	五

備考 前表中普通肥料とあるは反當堆肥百五貫匁、人糞尿三百貫匁、腐灰十貫匁を施用せしものにして元肥中堆肥は整地の際に藁灰は播種の際に人糞は追肥として草丈二尺内外迄に二回に等分し同量の水を以て稀釋分施せり。

以上成績により經濟上より打算するも尙普通肥料用量を増進するの必要を認め翌四十年度より從

來の普通肥料を變更し前表普通肥料五割増即ち堆肥二十五貫匁入糞尿四百五十貫匁糞灰十五貫匁を普通肥料として實施するに至れり。

然るに其後試験地の擴張と共に製造堆肥に不足を告げ到底全試験地に之を使用すること不可能なるに至り、堆肥代用として總督府專賣局にて廢棄せられつゝ、ありし煙骨を利用し反當二貫匁を四十四年度より施用せり。而して煙骨の含有加里分多きを以て同時に糞灰の施用を全廢し入糞尿のみ從前の通り之を施用し以て今日に至れり。尙黃麻肥料問題に關しては普通肥料用量試験、三要素試験及三要素適量試験等目下試験繼續中なるも、他日試験完結の上發表するに至らば肥料用量と收量及經濟上に及ばず關係を闡明するに至らん。

(六) 播種 當場に於ける播種期播種量畦幅株間及播種方法を示せば次の如し。

播種期 四月

反當播種量 八合(甲當七升八合余)

畦幅 一尺二寸(採種用區一尺五寸)

株間 間引き後三四寸とす

播種方法は鋤にて淺き作條を切り播種前水選乾燥し置きたる種子を手にて播種し鋤にて軽く覆土す。土地の乾濕程度により四五日乃至一週間に於て發芽す。

(七) 管理 播種後に於ける管理の主なるものは除草中耕間引及灌漑にして除草は中耕を兼ね三回間引は凡て女にて草丈五六寸の時第一回七八寸の際第二回の間引を行ひ最後の間引は草丈一尺内外に達したる際行ふものにして株間距離を三四寸とす。灌漑は天候及土地乾燥の程度に依り年々一定すること能はざるも、當場にありて平均三四回之を行ふ。其の法は早朝或は夕刻に至り畑全面

(八) 灌水し十分浸潤したる後(夕刻に灌水せる場合は一夜間放置し翌朝に至り)排水す。

病蟲害 害蟲として蚜蟲金龜子類の發生することなきに非らざるも、生育及收量に影響を及ぼすが如き被害なし。唯病害中黃麻立枯病最も甚だしく黃麻白絹病之に次ぎ、黃麻白澁病、黃麻苗枯病、黃麻斑点病、及黃麻眼點病等の諸病菌發生し、虫害に比し遙に被害大なり。就中黃麻立枯病及白絹病の如き將來大に注意を要する病害にして之が驅除豫防方法の如き決して等閑に附すべからず。其他根に蟲癭を生し腐敗枯死に至らしむる黃麻根腐病の被害又鮮少なからず(白絹病に關しては當場發行總督府農事試驗場特別報告第二號及第四號を、黃麻立枯病に關しては當場發行出版第一〇七號黃麻立枯病(豫報)或は臺灣農事報大正五年十一月號參照)

(九) 收穫及收量 收穫期の早晚は直に纖維收量及之が品位に關するものなり。即ち收穫時期早に失する時は纖維白色にして一見良質の觀あるも強靱を缺き、且收量大に減少するものなり。又晚きに失する時は纖維收量多きも光澤を缺き粗剛となり剝皮又困難となる故に之が適期を過ぎざる様注意するを要す。而して收穫の適期は製造法を異にするに依り之を二様に區別せざるべからず。即ち

(一) 第灣在來法に依り粗製纖維(幼麻及粗麻)製造の場合。

(二) 生莖浸水法に依る精製纖維製造の場合之なり。

(一) 土質により或は土地肥瘠施肥用量の多少及栽培法の精粗如何等により著しき差ありと雖、播種後四五ヶ月に至りて葉片硬化して稍黄色を帯ひ下葉漸次枯死落葉し莖稈は各品種固有の色を呈すべく、莖上部に技極を分出し且技條に開花せる花將に結莢せんとする頃を收穫の適期とす。

(二) 生育狀態前項と同一にして將に開花せんとする時期即ち播種後三四ヶ月頃を適期とす。本法に



より製造する繊維は收量の多寡如何を云爲するに比し、繊維の細大、強弱、及光澤の良否等品質に關する諸點を重要視せざるべからざるを以て、早きに失するよりも晩きに失せざる様注意するを肝要とす。

以上の時期に達せば抜き取りに便せんかため收穫の前日土地濕潤となる程度に灌水し置き翌日に至り手にて引き抜き直に竹刀にて生葉を除去し（生莖浸水法に依る場合は生葉を除去せざるも不可なし）繊維製造所に運搬して製造す。

當場に於ける粗製纖維（幼麻）及精製纖維收量次の如し。  
紅皮種外三品種に就き明治三十七年より同四十二年に至る六ヶ年間試験せる累年成績。

一反當生莖收量

品種名	三十七年	三十八年	三十九年	三箇年平均	四十年	四十一年	四十二年	三箇年平均
紅皮種	九八・五〇〇	一三三・六六〇	一〇〇・六〇〇	一〇六・七〇〇	六三・八六〇	九一・二〇〇	一二五・一〇〇	九三・六九〇
青皮種	九八・一五〇	一三三・三〇〇	九四・〇〇〇	一〇五・一五〇	六四・〇〇〇	八四・七五〇	一二三・七〇〇	九四・二〇〇
中生赤	〇九・〇〇〇	一〇九・三〇〇	九三・〇〇〇	九七・一七〇	七九・五六〇	七五・〇〇〇	一〇六・六〇〇	九六・九〇〇
長莖青種	八八・〇〇〇	一〇七・九〇〇	九三・五〇〇	九四・四八〇	八四・九〇〇	七五・九〇〇	一〇二・二二五	八七・六二〇

二反當生皮（生粗麻）收量

品種名	三十七年	三十八年	三十九年	三箇年平均	四十年	四十一年	四十二年	三箇年平均
紅皮種	三三九・五〇〇	三九六・五〇〇	三三九・五〇〇	三三九・八三三	二五九・六七九	三六五・五三三	四三三・八五一	三五五・六六七

三反當粗製乾纖維（幼麻）收量

品種名	三十七年	三十八年	三十九年	三箇年平均	四十年	四十一年	四十二年	三箇年平均
青皮種	二五五・五〇〇	三三六・六五〇	二八四・二〇〇	二七二・三三三	二四〇・四〇〇	二九六・六二二	三八一・二八八	三〇六・一〇〇
中生赤	二二〇・〇〇〇	三三八・五〇〇	二二一・〇〇〇	二二六・三三三	二二七・六四七	二五三・一七四	四三三・三三一	三〇四・七七
長莖青種	一九八・五〇〇	三三三・九五〇	二五〇・五〇〇	二二七・三三三	二二七・七三三	二五七・八八四	三一一・〇六七	二六五・五二二

四生莖に對する乾纖維（幼麻）歩合

品種名	三十七年	三十八年	三十九年	三箇年平均	四十年	四十一年	四十二年	三箇年平均
紅皮種	五七・一〇〇	八二・八〇〇	八八・七五	七二・八七五	六五・六六七	八三・三三	九一・六四四	八二・五〇四
青皮種	五二・五〇〇	八六・六五〇	七四・四〇〇	七二・一八三	五九・三三三	七五・五〇三	九三・二二	七五・六五三
中生赤	四一・〇〇〇	七八・九九五	六四・四二五	六二・四七三	五〇・五二八	五〇・八二五	九〇・二二	六三・六二五
長莖青種	四三・五〇〇	七五・〇〇〇	五二・一〇〇	五七・四七五	四七・一四二	五三・四二九	六五・五七九	五八・〇四五

品種名	三十七年	三十八年	三十九年	三箇年平均	四十年	四十一年	四十二年	三箇年平均
紅皮種	〇・五八一	〇・六九二	〇・八七	〇・六九七	一・〇一八	〇・九七八	〇・七三六	〇・九一四
青皮種	〇・五三三	〇・四〇三	〇・三九〇	〇・四七六	〇・九二五	〇・八五五	〇・七一一	〇・八三〇
中生赤	〇・五〇四	〇・六三三	〇・三二二	〇・四八八	〇・六三三	〇・六八八	〇・六五三	〇・六五九
長莖青種	〇・五四七	〇・六九四	〇・五五七	〇・五九九	〇・五五七	〇・七二九	〇・六四二	〇・六四五

備考 前四表共明治三十七年より同三十九年に至る三箇年と明治四十年より同四十二年に至る三箇年と二種に區別せるは前述せる如く施肥用量を異にするを以て（第五項資料の部参照）各別に平均收量を示せり。

次に明治四十三年より大正四年に至る五ヶ年間に（大正三年度は暴風雨被害のため成績確實ならざるを以て之を省けり）

深紅皮種外八品種に就き試験せる累年成績を示さん。

一反當生莖收量

品 種 名	四十三年	四十四年	大正元年	同 二 年	同 四 年	五箇年平均	平均收量列次
淡紅皮種	二〇七・七〇〇	一七三・〇〇〇	一四七・二一〇	一三九・〇〇〇	一三九・七五〇	一五二・三六〇	一
深紅皮種	二二七・九〇〇	一三三・〇〇〇	一三三・八一〇	一三三・〇〇〇	一三〇・九五〇	一四二・九二〇	二
印度青皮種	一九九・四〇〇	一三三・六〇〇	一三三・〇四〇	一三三・〇〇〇	一〇五・九〇〇	一三八・一三三	三
爪哇青皮種	一八六・六〇〇	一五九・〇〇〇	一四四・八六九	一五八・〇〇〇	一三〇・〇五〇	一四〇・三九四	四
早 生 赤	一四九・九〇〇	一三九・〇〇〇	一〇〇・〇七七	一〇七・七〇〇	一三九・〇〇〇	一三二・一一四	五
早 生 青	一〇九・一一〇	一三三・〇〇〇	一五七・一五八	一〇九・〇〇〇	一三〇・〇〇〇	一三二・八〇三	六
晚 生 赤	一四九・一六〇	一三九・〇〇〇	一三六・八四六	一〇九・〇〇〇	一〇八・〇〇〇	一三二・四二二	七
晚 生 青	一六〇・〇〇〇	一三六・〇〇〇	一三六・一五五	一〇六・〇〇〇	一三三・五五〇	一三〇・五二〇	八
短莖青種	—	—	—	—	—	—	—

二反當生皮(生粗麻)收量

品 種 名	四十三年	四十四年	大正元年	同 二 年	同 四 年	五箇年平均	平均收量列次
淡紅皮種	八二・八〇〇	四九・〇〇〇	六四・四四〇	四八・〇〇〇	三七・五九〇	五八・〇九四	一
深紅皮種	八三・八〇〇	四六・〇〇〇	六七・五三〇	五三・四九〇	四八・〇〇〇	五三・五二八	二

三反當粗製纖維(幼麻)收量

品 種 名	四十三年	四十四年	大正元年	同 二 年	同 四 年	五箇年平均	平均收量列次
印度青皮種	六四六・〇〇〇	四〇八・〇〇〇	四九三・〇〇〇	三三〇・〇〇〇	二二一・〇〇〇	四三二・一一〇	一
爪哇青皮種	六九六・〇〇〇	四九〇・〇〇〇	五四四・五九〇	三七五・〇〇〇	四三三・八〇〇	四八九・六七八	二
早 生 赤	六九〇・一〇〇	三三一・〇〇〇	四九一・一六〇	三三一・一六九	三一九・八〇〇	四四〇・九八二	三
早 生 青	四三三・〇〇〇	四一一・〇〇〇	六三三・三一一	二九一・〇〇〇	三七七・四〇〇	四三九・三四三	四
晚 生 赤	四八八・一〇〇	三六六・〇〇〇	五四七・七一〇	三三三・八四〇	三三〇・〇〇〇	四二二・三三三	五
晚 生 青	五九〇・七〇〇	三六七・〇〇〇	五二一・五五〇	四〇五・〇〇〇	三二六・〇〇〇	四四六・一三〇	六
短莖青種	—	—	—	—	—	—	—

四生莖に對する乾纖維(幼麻)歩合

品 種 名	四十三年	四十四年	大正元年	同 二 年	同 四 年	五箇年平均	平均收量列次
淡紅皮種	一三〇・一〇〇	一〇五・六〇〇	一一〇・五五〇	一一〇・一一〇	九六・〇〇〇	一一〇・五二四	一
深紅皮種	一三三・八〇〇	九三・四〇〇	九四・八一八	八五・〇五〇	七九・三五〇	九八・五八四	二
印度青皮種	一〇八・三〇〇	八四・九〇〇	八・〇三〇	八七・一五〇	六五・二五〇	八五・三三六	三
爪哇青皮種	一一一・一〇〇	八六・四〇〇	九四・七四〇	九五・七六〇	九三・八五〇	九七・一七〇	四
早 生 赤	八〇・七〇〇	八〇・一〇〇	八三・七五三	七七・五五〇	七三・四五〇	七九・五一一	五
早 生 青	七五・三〇〇	九二・一〇〇	一九・一九三	七三・二五〇	八三・三五〇	八九・八三九	六
晚 生 赤	八六・四〇〇	七三・七〇〇	九〇・五七九	七八・八一〇	八二・〇五〇	八三・一〇八	七
晚 生 青	九九・六〇〇	七九・八〇〇	八五・三八九	七八・四八〇	七八・九〇〇	八四・四三四	八
短莖青種	—	—	—	—	—	—	—

品種名	四十三三年	四十四四年	大正元年	同二年	同四年	五箇年平均	平均收量列
淡紅皮種	0.631	0.755	0.753	0.800	0.757	0.751	0.754
深紅皮種	0.651	0.700	0.711	0.757	0.757	0.750	0.715
印度青皮種	0.554	0.639	0.609	0.703	0.703	0.666	0.625
爪哇青皮種	0.607	0.622	0.656	0.827	0.773	0.773	0.697
早赤	0.553	0.617	0.644	0.720	0.720	0.692	0.625
晚赤	0.510	0.733	0.756	0.731	0.731	0.699	0.625
晚青	0.578	0.651	0.644	0.744	0.744	0.627	0.625
短莢青種	0.614	0.633	0.683	0.681	0.681	0.652	0.640

備考 前表中短莢青種は大正二年よりの試験成績なるを以て二箇年平均數を示せるものなり以下之に準ず。

五反當精製纖維收量

品種名	四十三三年	四十四四年	大正元年	同二年	同四年	五箇年平均	平均收量列
淡紅皮種	69.528	97.308	69.885	78.901	69.823	74.609	1
深紅皮種	75.568	84.716	63.918	67.208	57.792	69.040	2
印度青皮種	69.233	65.819	58.629	57.704	50.008	60.355	3
爪哇青皮種	65.547	82.685	69.018	66.885	59.020	66.661	4
早赤	57.778	75.862	54.626	63.122	66.938	65.561	5
晚赤	44.111	68.381	56.178	59.347	70.182	56.660	6

六生莖に對する乾精製纖維歩合

品種名	四十三三年	四十四四年	大正元年	同二年	同四年	五箇年平均
淡紅皮種	0.217	0.680	0.440	0.573	0.491	0.500
深紅皮種	0.113	0.611	0.480	0.599	0.481	0.499
印度青皮種	0.333	0.564	0.441	0.468	0.476	0.475
爪哇青皮種	0.342	0.594	0.411	0.575	0.479	0.481
早赤	0.331	0.584	0.410	0.586	0.525	0.489
晚赤	0.355	0.544	0.369	0.567	0.557	0.478
晚青	0.351	0.550	0.360	0.606	0.550	0.499
短莢青種	0.361	0.598	0.473	0.618	0.566	0.510
紅皮種	0.356	0.620	0.436	0.615	0.560	0.558
青皮種	0.485	0.600	0.400	0.513	0.599	0.511

中生赤	O-110	O-110	O-110	O-110	O-110	O-110	O-110
長莢青種	O-115	O-115	O-115	O-115	O-115	O-115	O-115

(二) 採種 普通纖維採取の目的を以て栽培するものと同一栽培法により別に採種用區(畦巾一尺五寸株間は間引後四五寸とするの差あり)を設け纖維採取時期に達するも收穫することなく其儘放置し開花結實せしむ十月乃至十一月頃萌稍黃褐色を呈し内部に包藏せる種子又少しく褐色を呈するに至れば各品種固有の形態特徴を具備せる生育良好なるもののみを選別し、枝極の分岐せる部より鑿にて刈り取り、七八日間陽乾し萌十分硬化せば榎枷或は木槌にて軽く叩きつ、萌より種子を分離調製し、尙四五日間十分乾燥して貯藏す。

當場大正四五年に於ける成績調査に依れば種子收量及一升の重量次の如し。

反當累年種子收量及一升の重量

品 種 名	種 子 收 量			平均收量列次	種 子 一 升 の 重 量		
	大正四年	大正五年	二箇年平均		大正四年	大正五年	二箇年平均
淡紅皮種	0.605	0.690	0.648	五	0.111	0.116	0.113
深紅皮種	0.670	0.555	0.613	二	0.101	0.111	0.106
印度青皮種	0.450	0.690	0.570	四	0.105	0.108	0.106
爪哇青皮種	0.555	0.630	0.593	三	0.108	0.102	0.105
早生赤	0.450	0.630	0.540	八	0.111	0.118	0.114
早生青	0.515	0.610	0.563	六	0.111	0.101	0.106
晚生赤	0.630	0.620	0.625	一〇	0.111	0.101	0.106

品 種 名	種 子 收 量			平均收量列次	種 子 一 升 の 重 量		
	大正四年	大正五年	二箇年平均		大正四年	大正五年	二箇年平均
晚生青	0.645	0.695	0.670	九	0.120	0.115	0.117
短莢青種	0.450	0.600	0.525	一三	0.113	0.118	0.115
早生青種	0.465	0.515	0.490	一一	0.113	0.113	0.113
紅皮種	0.500	0.645	0.573	七	0.101	0.114	0.107
青皮種	0.585	0.615	0.600	九	0.108	0.101	0.104
中生赤	0.515	0.615	0.565	一	0.108	0.113	0.110
長莢青種	0.510	0.515	0.513	六	0.112	0.113	0.112
長莢斑縞種	0.605	0.630	0.618	八	0.111	0.101	0.106

第二節 嘉義廳下に於ける黃麻栽培法

(一) 地形及土質 廳下主產地たる打猫北堡、嘉義堡、他里霧堡西龍蛟潭堡及鹽水港堡等各地一帯の地方は悉く平坦地にして山腹地或は傾斜地等に栽培するもの殆んどなく、主として山畑地に栽培す。而して畑作にありては各地共多く灌漑水の便なく乾田作及水田作にのみ之を有する場合あり。土質は普通黒色を帯へる粘質壤土、稀に壤土にして砂礫多き地及輕鬆砂質地に栽培するもの少し。之れ栽培者多年の經驗上能く本作物本來の性状を知悉せるに因るならん。然れども栽培者一般に、栽培地選定に當り栽培上最も必要條件の一たる灌漑水に關する注意を度外視する傾向あるは勿論天候其他水量不足より生ずる不可抗力の場合なきに非ざるも、尙仔細の注意を拂ふに於ては確に今日以上に向上せしむるを得ん。如斯注意の欠如は廳下黃麻作不振の主因と云ふも敢て過言ならざるべし。故に將來此點に對し十分の注意を以て農民を指導啓發するは目下の急務なりとす。

(二) 品種 應下に分布する品種は紅皮種、深紅皮種、淡紅皮種、青皮種及長莖青種(オトリトリアス)等にして栽培面積及區域の最も廣きは紅皮種及青皮種とす。深紅皮種及淡紅皮種は全應下に互りて栽培せらる、も面積は前二者に比し劣り、長莖青種の如きは僅に東石港支廳下龍蛟潭堡義竹園庄附近に散見するに過ぎず。

一部地方を除き一般に品種に關する觀念薄く、之が改良選別等に留意するもの甚稀にして異品種の混淆せるま、播種するもの及草丈低く且枝椹多生せる劣等品種の各地に栽培せらる、を見る。今各品種に就き栽培上利害得失及之が優劣に關し調査するに同一品種にして栽培地方を異にするにより同一ならざるものありと雖、如斯きは唯古くより其地に栽培し來れる結果之を優良多收なる品種と思意する一の習慣及誤信に過ぎずして決して各品種を比較栽培したる具體的立證にあらざるや勿論なり。其他土地の肥瘠栽培法の精粗等又密接なる關係あるが如し。左に當場に於ける分類を基礎とし土名、分布状態及之が優劣を調査のま、別記せば左の如し。

一品種

品當	場種	分類	名類
淡紅皮種	嘉義	西堡	打貓北堡
深紅皮種	嘉義	西堡	龍蛟潭堡
紅皮種	嘉義	西堡	龍蛟潭堡
青皮種	嘉義	西堡	龍蛟潭堡
長莖青種	嘉義	西堡	龍蛟潭堡

(二) 各品種の分布状態及優劣

當場分類品種名	嘉義西堡	打貓北堡	龍蛟潭堡
淡紅皮種	草丈高く收量多きを以て栽培者最も多し	草丈深紅皮に比し低きも皮部厚く收量多きを以て栽培者多し	栽培者なし
紅皮種	草丈低く收量淡紅皮種に比し少なきを以て栽培者少な	草丈低く收量少なきを以て栽培者少なし	皮部薄く收量少なきを以て栽培者少なし
青皮種	なし	草丈低く收量少なきを以て現今栽培する者なし	皮部厚く收量多きを以て栽培者多し
長莖青種	なし	なし	試験的に栽培するのみにして甚少なし

(三) 輪栽法 輪栽法の如何は地方により又畑作、乾田作及水田作により各之を異にせり。即ち嘉義西堡湖仔内庄、崎仔頭庄、柳仔林庄、下路頭庄及車店庄等の如く水田作を行ふ地方に限り連作をなすと雖普通輪作を行ふもの多し。之れ畑地に於ける連作は病蟲害の被害を多からしむるのみならず皮部薄く且收量漸次減少するを以て上畑にあらざれば連作することなく二年乃至四五年一回の輪作を行ふもの多し左に各地に於ける輪栽方法を示さん。

湖仔内庄、崎仔頭庄、柳仔林庄、下路頭庄及車店庄の各庄は前述の如く水田作を行ふものにして降雨順なる場合は水稻作(第一、二期)を有利とするも、否らざる時は第一期黃麻第二期水稻作(第二期)を行ふを有利とす。而して黃麻作は跡地の地方を甚しく減耗せしむる如く唱ふる者あるも決して否らず生葉支根及毛根(收穫の際該地方にては黃麻莖を以て支根及毛根を切り去り直根のみと

なし抜き取るを以てなり)は跡作第二期水稻の肥料として効果甚大なりとす。故に該地方に於ける黄麻栽培者の多くは本法を採用する以所なり輪栽法次の如し。

黄麻—第二期水稻(鳥咬、大始姆) (甘、諸) 黄麻

黄麻—第二期水稻(店葉、隱葉種) (蕃仔豆) 黄麻

二打猫北堡

舊庄游厝庄及大埤頭庄等は主なる産地にして産額最も多きは舊庄とす、該地には臺灣製麻株式會社出張員駐在し該地方附近に於ける黄麻作の奨励をなしつゝ、あり。各地とも畑作及乾田作の二法にして乾田作に依るもの多し。

(イ)黄麻—第二期(岸仔園) 蕃仔豆—黄麻

(ロ)黄麻—甘、諸、陸稻—大根—黄麻

(ハ)黄麻—大根—黄麻—蕃仔豆—黄麻

三龍蛟潭堡

該地方は五六年前迄は一戸の作付面積五六分乃至七八分内外を栽培するもの多數なりしも近年甘蔗作發展に伴ひ一戸作付面積五六分位を以て最多とするに至れり。多く畑地作を行ふ義竹園庄、過路仔庄、頭竹園庄、牛稠底庄及芋仔寮庄等主産地にして義竹園庄産額最も多し輪栽法次の如し。

小麥—黄麻

蕃仔豆—甘、蔗—黄麻

甘、蔗—蕃仔豆—黄麻

黄麻—蕃仔豆—甘、蔗—黄麻

甘、蔗—蕃仔豆—黄麻

(四) 整地 田畑及前作物の種類に依り多少差異あるも犁耕二三回乃至四回之を行ひ刈耙及石輪(龍蛟潭堡の如き畑地)にて土塊を破碎し手耙を以て地表を均一ならしめ(打猫北堡及龍蛟潭庄にては手耙は雜草多き場合及前作物甘蔗なる場合に限り用ふ)たる後犁にて作條を作るを普通とす。

(五) 肥料 一般に施用量少なく且肥料單純にして土糞最も多く稀に人糞尿を施すものあり、即ち嘉義西堡にありては播種の際土糞甲當七八千斤を作條中に撒布し其上に播種するのみ爾後一回だも追肥等を施すことなく甚しきに至りては無肥料栽培を行ふもの少なからず。

打猫北堡にては播種の際土糞甲當四五千斤を播種後種子上に撒布し後追肥として培土の際同量の土糞を施用す。

龍蛟潭堡にては犁耕前元肥として土糞甲當平均一萬五千斤乃至二萬斤を(蕃仔豆跡地の場合には一萬五千斤甘蔗跡地には二萬斤)畑全面に撒布犁耕す追肥として稀に人糞尿甲當一萬斤を草丈一尺内外に生長せる時施肥することあり。

(六) 播種 各地に施ける播種期播種量播種方法畦幅及株間を示せば次の如し。

種別	嘉 義 西 堡	打 猫 北 堡	龍 蛟 潭 堡
播種期	自三月中旬至四月中旬(清明前)	自三月中旬至四月中旬	三月中旬
畦幅	一尺五寸	一尺四寸	一尺五寸
株間	間引きて五六寸	間引きて四五寸	同
甲當播種量	四斤	三斤乃至四斤	四斤
畦幅	一尺五寸	一尺四寸	一尺五寸
株間	間引きて五六寸	間引きて四五寸	同

備考 前表によれば畦幅一尺四寸乃至一尺五寸なるも犁にて作業するを以て各列齊一ならざれば勿論なり。又播種の如き當場に於ける甲當七斤八合に比すれば其半量強なるも前述の如く畦幅齊一ならざるを播種の際一々秤量せるにあらざれば之を以て全然信する能はず。雖調査のまゝ掲載せり。

播種方法を述べんに龍蛟潭堡にありては手にて播種したる後手耙を以て覆土を行ひ、尙石輪を縦

に(土塊大なる時は横に廻轉す)廻轉しつゝ、鎮壓せしむ。打猫北堡に於ては手にて嘉義西堡にては竹管仔(一種の播種器にして黄麻、胡麻の如き小粒種子播種用に供す全長二尺二寸口徑一寸六七分の竹管にして底部に節を付し之に小孔を穿ちて種子の落下するに便ならしむ上端四五寸の處より半ば位切り取りて把持に便せり)中に種子を充たし、之を振動しつゝ、播種す。

覆土法は兩堡共糞箕(左右兩把手に繩を附し重量を大ならしめんかため適宜に土塊を盛る)或は壘仔(往時對岸支那より輸入せられし酒は凡て該壘仔に詰め輸送せられたるものにして深さ一尺一寸口徑三寸内外中央膨大せる部分の外圍二尺八寸あり粗六升位を容る農家は之を種子貯藏用に利用することあり)に砂を入れ口内部に引き繩を附する横木を脱出せざる様挿入し、人力にて作條の上を引きつゝ、覆土し置く時は何れも四五日を経て發芽すべし。

(七) 管理 播種後に於ける管理は除草、中耕、間引、培土及灌溉等にして嘉義西堡にありては前述せる如く他地方と特殊なる水田作法を行ふ之か方法を記述せば次の如し。

除草は土質及雜草繁茂の程度により差異あるも普通一二回にして間引き前肥仔を以て中耕を兼ね行ふ。間引は普通一回草丈一尺内外に生長せる時間引て株間を五六寸とす此際列中にある雜草の除去をも兼ね行ふ後四五十日を経て草丈二尺内外に生長せば深さ五六寸に肥仔及犁にて中耕を兼ね培土を行ふ其の理由とする點は灌水後根の腐敗を豫防せんかため又一は風雨のため莖稈の仆伏するを防ぐにありと云ふ。而して灌水量は草丈伸長の程度に従ひ漸次増加するものにして六月上旬に至り草丈五尺内外に達せば水稲と同じく十分灌溉し排水することなく其儘收穫期に至るまで灌水するものとす。

打猫北堡にありては除草一回(間引前或は同時に行ふ)間引一回(或は行はざることあり)四月中旬

頃草丈四五寸の際に行ひ培土は五月中旬に至り一回行ふのみにして灌溉等の手入を行ふことなし。

龍蛟潭堡にありては降雨の有無に依り差異あるも除草は普通二三回中耕を兼ね肥仔にて行ふ。間引は草丈四五寸に達せる時一回行ふもののみにして株間距離は肥沃の土地なる時は二三寸瘠地にありては四五寸とす。而して培土は生育の良否如何により肥仔或は犁を以て一回五月中下旬に行ふ。

(八) 病蟲害 各地共病蟲害の被害少なく之かため生育及收量等に悪影響を及ぼしたる實例なし。強ひて之を求むれば嘉義西堡地方に於ける金龜子類、「ヒメアカキリバ」蚜蟲等の蟲害自絹病及立枯病の被害多少あり。又龍蛟潭堡地方にては「ヒメアカキリバ」及「ダイワンオホコホロギ」(粘質地よりも砂質地に多く甘蔗跡地よりも甘蔗跡地に多し)の被害あるに過ぎず。

(九) 收穫及收量 收穫期の特徴は草丈十分生長し下葉漸次脱落するもの多く莖葉又黄褐色の度を増加し且莖頂部に至りて分枝せる枝極上に開花せる多數の小花結實し初むる時にして、此の時期を以て收穫の適期とす。

此の期に達せば嘉義西堡にては灌水せるま、收穫す其方法は一人黄麻鑿(圓鐵仔の小形なるものにして長さ三尺二三寸木製の柄を嵌せるもの)にて一莖毎に前後或は左右一回宛根元に副ひ恰も圓形を畫く如くに土中に挿入し支根及毛根を切り去り主根のみとなしつゝ、全畑に及ぶ他の一人は之を抜き取り竹刀(長二尺五六寸口徑七八分位の圓竹にして柄部七寸位を残し半面を削りて刀状となせるもの)を以て生葉を除去し一定の束となし製造所に運ひて製造す。

打猫北堡に於ける従來の收穫方法は多く根より引き抜きたるも近來製麻會社と契約栽培せるもの

及同會社へ販賣せんとするものは凡て根元より甘蔗刀を以て切り倒し生葉附著のまゝ多く圃場の一角於て製造に従事するものとす。

龍蛟潭堡にありては收穫前降雨に際會せば手にて引き抜くものありと雖降雨なき場合は引き抜き法困難なるを以て多く犁(犁壁を外す)にて畦の兩側を犁き分け收穫す。而して生葉は竹刀にて直に除去するか或は製造の際手にて扱き落すものとす。左に收穫時期及甲當收量を示さん。

堡名	收穫期	收量			上品價格			中品價格			下品價格		
		上畑(田)	中畑(田)	下畑(田)	直行	加二	直行	加二	直行	加二	直行	加二	
嘉義西堡	自七月中下旬 至八月中旬	幼 8000 斤	幼 8000 斤	幼 8000 斤	自 7000 円 至 8000 円	—	自 6000 円 至 7000 円	—	自 5000 円 至 6000 円	—	—		
打猫北堡	自七月上中旬 至八月上旬	幼 8000 斤	幼 8000 斤	幼 8000 斤	—	—	—	—	—	—	—		
龍蛟潭堡	自八月上旬 至九月中旬	幼 2000 斤	幼 1500 斤	幼 1000 斤	—	—	—	—	—	—	—		

備考 前表中幼とあるは幼麻、粗とあるは粗麻を示す。價格は大正五年度收穫當時地元相場を示せるものにして直行及加二とは仲買商人と取引する舊慣重量なり。即ち直行とは普通重量を示し加二とは加二割増しの重量とす。

(一〇) 採種 嘉義西堡地方にて行ふ採種法に二種あり。甲は收穫の際黄麻畑地の一隅或は一側に跡作の作業上妨害とならざる様所要敷を收穫することなく。其ま、残し置き開花結實後種子成熟するに至れば刈り取り十分陽乾し叩きて採種す。種子は尙一二日乾燥後竹筒或は壘等に容れ貯藏す。然れども本法に依るときは種子收量多きも翌年に至り草丈低く且分枝極多く品位惡變すと稱し種子の販賣を目的とする以外之を忌むもの多し、乙は該地方黄麻收穫跡地或は附近水田等にて屢々

散見する方法にして移植採種法或は摘心採種法とも稱すべき方法にして前法と異なり採種用に供せるため纖維收量を減する(採種後の生莖は剥皮困難なるのみならず纖維硬化するを以て纖維製造に供することなく放棄するもの多し故に採種に供用せる分の纖維收量を減する割合なり)等の缺點なく頗る經濟的方法なり。即ち收穫の際米麥其他の作物に於ける拔穂と同じく全圃中生育良好且分枝極少なきもの或は全然分枝せざるもの、みを選み莖上部より二尺内外に切断し(分枝せるものは分枝せる正下より切断す)之を畦畔に沿ひ水田中に挿入し活著後開花結實するを待ち十月中下旬水稻收穫前鎌にて刈取り前法と同様に採種貯藏す。

本法に依るときは草丈高く品位惡變する憂なしとて一般に自家用種子は本法を採用せり。打猫北堡及龍蛟潭堡地方にありては嘉義西堡と異り乙法によるもの少なく専ら甲法を採用せり即ち九月下旬残し置きたるもの開花結實し成熟するに至れば先端を切り取り適宜束となし雨に濡れざる様軒下に吊し置き播種前に至り二三日間陽乾後叩きて採種するを普通とす、打猫北堡にて種子收量甲當一石價格一升上八十錢中六十錢下四十錢内外なり。(種子一升嘉義西堡五十錢乃至一圓龍蛟潭堡四十錢乃至八十錢内外)

第三節 臺中廳下に於ける黄麻栽培法

一、地形及土質 廳下に於ける主産地は北斗員林地方にして多く畑地或は灌溉に不便なる地に栽培し田地に栽培するもの其數少なし。土質は地方により異なるも普通黒色及暗灰色の粘土及粘質壤土に栽培するもの多く砂質及礫質地に栽培するもの殆んど稀なり。二、品種 廳下一般に分布せらるる、品種は深紅皮種、淡紅皮種、紅皮種及青皮種にして作付面積最



も廣きは紅皮種なりとす。而して栽培者の品種の優劣及其他に關する觀念は嘉義廳下と同しくして毫も之が改良等に留意するものあるを見ず。即ち他品種殊に劣等品種の混在するも尙意に介せざるが如き傾向各地至る處に散見するを以て、之を證するに足る。而して當廳下の如きは臺灣唯一の黃麻會社所在地として將た又米産地として何れも黃麻に淺からざる關係を有するの地なるを以て、優良品種の普及を圖るは勿論、進んで栽培方法の改良を行ひ尙從來の製造方法を改めて浸水法を奨勵し、卒先以て他廳下に模範を示し臺灣黃麻改良の先驅者たるの要あるは暇々を要せざる所なり。

三、輪栽法 地方により或は土地灌溉の便否、肥瘠、栽培作物の種類及地方的習慣等により毎年二年三年輪栽等の差異あり即ち左の如し。

- (一) 武西堡
  - 畑地 黃麻(大根其他) 蔬菜類 黃麻
  - 田地 黃麻 甘藷 第一期水稻 第二期水稻(大根 豌豆) 黃麻
  - 田地 黃麻 甘藷 黃麻 甘藷 第一期水稻 第二期水稻 第一期、二期水稻 黃麻
- (二) 東螺東堡
  - 黃麻 甘藷 甘蔗(二箇年) 黃麻
  - 黃麻 甘藷 黃麻 甘藷 黃麻 豆類 黃麻
  - 黃麻 豆類 黃麻 蔬菜類 黃麻 甘藷 黃麻
  - 黃麻 甘藷 黃麻 豆類 黃麻 蔬菜類 黃麻

黃麻 第二期水稻 蔬菜類 黃麻  
 四、整地 田畑土質の如何前作物の種類及地方により多少の差異あるも犁耕三四回、刈把及手把二三回、石輪四回位を以て耕起せる土塊を破碎し、地面を均一ならしむ、之れ各地方に普通行はる、整地方法なりとす、之れが順序を示せば次の如し。

- 第一回 犁耕(刈把 石輪 手把 刈把)
- 第二回 犁耕(刈把 石輪 手把 石輪)
- 第三回 犁耕(刈把 手把 石輪 手把 石輪)
- 第四回 犁耕(手把 石輪)

以上の方法を以て整地するに際し土地若し排水不良なる時は其の程度により二三間乃至五六間毎に小溝を設け排水に便せしむ。

五、肥料 普通土糞大豆粕及人糞尿等にして稀に調合肥料及過磷酸石灰の如き金肥を施用するものあるも其數僅少なり。而して甲當施肥用量は地方により異なること次の如し。

員林支廳下	土	糞	人糞尿	大豆粕	調合肥料
(二)(一)	15,000斤	11,000斤	1,000斤	100斤	10斤
(一)(二)	10,000斤	8,000斤	1,000斤	100斤	10斤
(一)(一)	8,000斤	6,000斤	1,000斤	100斤	10斤
(二)(二)	6,000斤	4,000斤	1,000斤	100斤	10斤

北斗支廳下	(三)	至自	10,000	10,000	10,000
	(四)		10,000	10,000	10,000

員林支廳下に於ける施肥方法は播種の際種子の上より土糞全量を覆ひ發芽後一箇月位(草丈四五寸)に至れば第一回追肥として人糞尿を稀釋し半量を施し、後五六十日を経て第二回追肥として残り半量を施用す。而して大豆粕は草丈一尺五、六寸に生長せる時全量を施用するものとす。北斗支廳下にありては土糞及調合肥料半量を播種の際種子上より覆ふこと前者と同一にして残り半量及大豆粕は培土の際施用す。

其他地方により落花生、胡麻、大菜油粕及過磷酸石灰等を元肥及追肥として施用することあり。

六、播種 各地に於ける播種期甲當播種量畦幅及株間を示せば次の如し。

株間	畦幅	播種量	播種期	員林支廳下	北斗支廳下	鹿港支廳下	二林支廳下
間引きて五六寸	十五尺の大畦上に一尺五寸にす	(一) 五升 (二) 三升	(一) 清明前後 (二) 清明後二十日	清明前後十日	四月上中旬	三月中旬	三月中旬
間引きて五六寸	細一尺二寸一尺五寸 田十五尺の大畦上に一尺五寸	(一) 一升 (二) 四升		五升一七升	一尺二三寸	一斗五升	一尺五六寸
間引きて四五寸					間引きて四五寸	間引きて四五寸	間引きて四五寸

備考 播種期は地方により多少の差異あるも各廳下共清明(四月六日)前後二十日以内に播種するを要す。播種量は同一地方として甚しき差あるを以て疑はしきも調査のまゝ記載せり。

播種法は各地共條播にして員林支廳下にては嘉義西壁と同じく竹管仔或は手にて播種し土糞を覆ひ其上を強仔にて覆土す、其他の地方は殆んど手にて播種し土糞を覆ひ尙少しく覆土するを普通とす。各地共播種後四五日を経て發芽するものなり。

- 七、管理 播種後に於ける管理は各地共普通間引除草中耕及灌溉なりとす。其回数地方により差異あるも間引一回(第一回草丈四五寸の時)、第二回草丈一尺内外の時(除草中耕二三回(發芽後草丈一尺内外の時)、降雨の際會せば地面硬結し生育を阻害するを以て耙仔にて其都度除草を兼ね中耕を行ふ地方あり。培土一回(草丈二尺乃至三尺位に生長せる時)灌溉は水利の便なる圃地にして早魃の憂ある時に限り之を行ふ。
  - 八、病蟲害 各地共病蟲害の被害少なく唯僅かに立枯病の發生すると害蟲として蛾蟲及「タイワンオホコホロギ」の被害あるも害少なし。而して「タイワンオホコホロギ」の驅除法は灌溉を以てし又之れが豫防法として輪作を行ふ時は被害大いに減少すと稱せり。
  - 九、收穫及收量 收穫期の早晩は收量の多少製造努力に大なる關係を及ぼすものなり。即ち收穫早きに失する時は製造容易なるも收量少なく之に反し晩きに失する時は收量多きも纖維硬化し且つ製造頗る困難となる。故に草丈十分生長し開花結實し莢指頭大に膨大せる時期即ち播種後百日乃至百二十日内外を以て收穫の適期とす。
- 收穫期に達せるものは畑地にありては主として手にて根より引き抜き、田地にありては鋸、犁又は苜蓿鑿仔(苜蓿苗を母木より分根する際用ふる鑿狀のもの)を以て引き抜き、生葉を除き(除かざる地方あり)一定の場所に運搬して製造に供す次に收穫期及甲當收量を示さん。

支 離 名	收 穫 期	數 量				百 斤 價 額		
		上 畑 (田)	中 畑 (田)	下 畑 (田)	上 品	中 品	下 品	
員 林	八月中下旬	田 11,500	畑地 11,100	11,100	1,500	1,800	1,800	
北 斗	八月上中旬	田 11,700	畑地 11,000	11,100	1,800	1,800	1,800	
二 林	八月中下旬	田 11,600	畑地 11,000	11,000	1,800	1,800	1,800	
鹿 港	八月中下旬	田 11,500	畑地 11,000	11,000	1,800	1,800	1,800	

備考 前表纖維收量は幼麻にして百斤價格は臺灣製麻株式會社の購買價格を示せるものなり。

一〇、採種 廳下に於ける採種法は之を三種に區別するを得、即ち第一法黃麻收穫の際跡作々業の  
 防害とならざる個處を殘し置き開花結實後採種する方法、第二法は分枝少なきもの、みを選び莖  
 上部二尺内外より切斷し之を水田畦畔に接し水中に挿植し置き活着後開花結實するに至りて採種  
 す。以上二法は嘉義廳嘉義西堡地方に行はる、方法と同一なりと雖第三法は他地方に多く行はれ  
 ざる方法にて移植採種法と大體に於て同一なるも唯切斷移植後根の活着するを待ち之を引き抜き  
 て豫め施肥整地し置きたる畑地に移植し、採種するの點を異にするのみ。而して第一法による採  
 種時期は九月下旬乃至十月上旬に至り莖の外部稍黃褐色を呈し子實稍變色するに至れば分枝せる  
 部分より切り取り之を地上或は屋上に擲げ十分乾燥し、叩きて種子となし嘉義地方と同一方法に  
 より風通良き場所に貯藏す。第二法は嘉義廳下と異なり毎年連續採種を行ふものに非らずして三

四年目に一回位行ふを普通とせり。

第四節 臺南廳下に於ける黃麻栽培法

一、地形及土質 大目降支廳管内の一部の如き山地畑に栽培するものなきにあらざるも其他の地方  
 に於ては平地畑及田地に栽培するを普通とせり。而して栽培地の土質は畑地にありては壤土及砂  
 質壤土に、田地にありて粘質壤土を適土となし砂土及粘土は黃麻の生育を阻害するのみならず初  
 成皮層薄く且つ莖稈部細長となる缺點あるを以て斯る土壤に栽培するもの少なし。

二、品種 廳下栽培者の多くは青皮種紅皮種及紫皮種即ち深紅皮種の三品種にして、就中青皮種收  
 量多きを以て栽培面積最も廣く、且つ本種は水濕に耐ふる力強きを以て該種より製出せるものは  
 多く水中に使用する器具機械類の繩網用に、又紅皮種は比較的乾燥に耐ふる點より該纖維は陸上  
 に使用する諸繩網用に、紫皮種は専ら麻布用に供せらる。然れども仔細に之を調査せば廳下に分  
 布せる品種は之を四品種に區別せらる。即ち廳下に最も廣く栽培せらる、青皮種は青皮種に非ず  
 して葉柄及莖の色により淡紅皮種なるを確かめたり。蓋し本品種の莖色深紅皮種の如く特色ある  
 深紅色を呈せざるのみならず麻畑の中央部日光の透射不充分なる分部は色薄く恰も青皮種の如き  
 觀あるを以て誤認せる結果青皮種と呼稱するに至れるものなるが如し。紅皮種は即ち紅皮種にし  
 て作付面積前者に次ぎ紫皮種(深紅皮種)は他品種中に混在するも本品種のみ殊に栽培するもの少  
 なし。青皮種は長興下里太子廟庄に栽培せられ該品種は之等を嘉義廳下より種子を取寄せ栽培せ  
 しも初成皮層薄く收量少なきを以て該地方のみならず他地方に於ても現今之を栽培するもの甚だ  
 稀なり。

三、輪栽法 田地及畑地により多少之を異にするも連作及三四年輪栽との別あり。

三、連作の場合

田 黄麻—第二期水稻(烏壳晚) — 黄麻  
畑地 黄麻—甘藷—黄麻

一年輪栽の場合

田 黄麻—第二期水稻(白脚晚) — 甘藷 — 水稻(中間作) — 豌豆 — 黄麻  
畑地 黄麻—第二期水稻(烏壳晚) — 甘藷 — 田菁 — 第二期水稻(白尖仔禾) — 黄麻

一年目

二年目

三年目

四年目

五年目

六年目

一年目

二年目

三年目

四年目

五年目

六年目

犁耕は播種前に行ふものにして第三回同様刈耙及手耙にて十分土塊を碎き地面を均一にして整地を終るものとす。

五、肥料 普通施用する肥料は元肥として土糞甲當四五萬斤を最後の犁耕前(四回犁耕する場合に第二回犁耕の際施用することあり)圃地全面に撒布して犁き込むものとす。追肥としては主に人糞尿甲當二千斤乃至六千斤位(長興下里太子廟區長黃澤は甲當二萬斤を施用しつゝあり)を培土の際施用す。又牛車を有せざるものは土糞及人糞尿の運搬費を節する目的を以て調合肥料甲當三四百斤を施用するもあり。其他單に元肥のみを施し追肥を施さるる場合及追肥のみ施すもの等種々ありて一定せざるが如し。

六、播種 播種期甲當播種量畦幅及株間を示せば次の如し。

播種期	長興下里	歸仁北里
播種量	四月下旬(清明前) 七八升	田 三月中下旬 四月月上旬 田畑共 一斗
畦幅	一尺五寸乃至二尺	一尺五寸
株間	千島掛に間引きて三四寸とす	間引きて五六寸とす

播種方法は凡て條播にして犁を以て深さ四五寸位の作條を切り手にて播種す。歸仁北里地方にては播種前種子を一夜間浸水し細砂を混し播種したる後熊手にて作條中を掻き混ぜつゝ、足にて覆土するか或は土塊を糞箕に盛り兩把手に繩を附し作條を引きて覆土を行ふもあり。又長興下里太子廟附近にては種子を一夜間浸水し之を小麥粉袋に入れ尙一夜間其儘放置し萌芽せしめたる後播種し足にて覆土後尙地面を均一ならしめんがため葉付の林投或は竹にて地面の掻き均らしを行ふ。斯くして四五日を経過せば發芽するものなり。

七、管理 發芽後降雨ある時は耙仔にて中耕を行ふ。間引は地方により二回にして即ち一回行ふ地方は草丈三寸乃至五寸の時間引きて四寸乃至六寸となす。又二回行ふ地方にては草丈二三寸の際千鳥掛けに間引きて三寸位となし後一尺五六寸に生長せる時再び間引きて株間距離を六寸位となす。除草中耕は耙仔或は鋤にて二三回行ひ培土は犁(犁壁を除きて)或は鋤にて五月頃草丈二三尺に達せる頃一回之を行ふ。其他灌漑は降雨の多少及灌漑水の便否如何によりて適宜之を行ふものとす。

八、病虫害 病虫害中白絹病及立枯病に侵されたるもの一二あるを實見したるのみにして被害甚だ少なく殆んど生育及收量等に何等の影響を及ぼさざるが如し。又虫害の如きも砂質地にありては發芽當時僅かに「タイワンオホホロギ」の被害あるのみなり。

九、收穫及收量 收穫の適期は他廳下と同じく草丈十分生長し(收穫當時草丈普通八九尺とす)莖上部に至り枝極分枝し開花結實し初めたる時期とす。

收穫期に達するも降雨なく土地乾固せる場合は犁にて畦側を犁き分けつ、手にて引き抜き收穫を行ふと雖、若し降雨ある時は土地濕潤となるを以て直に手にて引き抜き竹刀にて生葉を除去し製造所に運搬し製造するを普通とす。其他長興下里及歸仁北里地方中灌漑の便ある土地にありては收穫前十分水を畑中に引き入れ浸潤せしめたる後足先にて根際を踏み分け一二本づ、引き抜き根部に附着せる土を洗ひ落し録にて生葉着生の多き先端を切り落し(之れ跡作の肥料となす目的なり)適宜の束に結束し製造所に運び製造するもあり。左に收穫期及甲當粗麻收量を示さん。

收穫期	上	中	下

長興下里	八月中旬下旬	1,000斤	700斤	1,100斤
歸仁北里	七月中旬下旬	1,000斤	700斤	1,100斤
	八月上旬	1,000斤	700斤	1,100斤

備考 前表地方は主として粗麻のみを製造す  
販賣法は産地にて仲買人に直接賣渡すものと臺南及安平地方へ牛車にて搬出販賣するものとの二種あり。而して製造者と仲買人との間に行はる、舊慣重量(千斤建)は搬出距離及價格に關係すること次の如し。

舊慣織維	千斤建名稱	重量	販賣地	上	中	下
加	一、五	1100斤	安平	5,000	5,000	5,000
加	二、五	1150斤	南	5,000	5,000	5,000
加	二、六	1200斤	地	5,000	5,000	5,000

前表の如く搬出距離によりて千斤建方を異にするのみならず尙價格にも關係を及ぼすは之れ距離の遠近により運賃に關係あるを以なり。  
一〇、採種 採種法は嘉義地方と異なり唯一種にして收穫の際黃麻畑の外圍にして跡作業の障害とならざる部分を限り所要數丈け存置し、九月下旬に至り枝極分枝し種子成熟するに至れば分枝せる部分を鎌にて刈取り之れを軒下に吊し置き十分乾燥せしめ、十二月乃至翌年三月頃晴天の日を

選り蒔を叩きて種子を調製し、竹筒中に貯藏し、播種前風選を行ひ下種す。歸仁北里地方にても略は之れと同一にして收穫の際残し置きたるもの收穫後二十四五日乃至一箇月を経て蒔の色稍黄褐色を呈するに至れば先端枝極部を鎌にて刈り取り、(子實十分成熟せば發芽歩合劣ると稱し乾燥中に追熟を行はしむ)之れを屋上に横げ晴雨の別なく連日連夜其のま、放置し、十二月頃に至り(甚だしきは播種前迄放置することあり)叩きて種子を調製し、竹筒中に貯藏するを普通とす。

第五節 南投廳下に於ける黄麻栽培法

一、地形及土質 廳下に於ける主産地は北投堡沙連堡及南投堡にして就中北投堡最も多く、良質黄麻を産出す。何れも畑地に栽培するもの少なく灌漑の不便なる看天田を利用栽培するもの多し。土質は普通粘質壤土なるも直轄林仔庄及草鞋墩支廳下匏仔寮庄地方にては往々壤土に栽培し成續優良なるものあるを見たり。

二、品種 一般に栽培する品種は紅皮種及青皮種にして紅皮種は收量多きも纖維粗剛なるを以て之れを忌み青皮種を栽培するもの多し。之れ青皮種は收量前者に劣るも纖維品質優良なるを以て匏仔寮庄地方の如き粗麻布(現今粗麻布製造者減少せるも往時は粗麻布産地として有名なりき)製織用には缺くべからざる品種として推奨せられ、且施肥用量少なきも尙相當收量を擧げ得るの利益あるを以て本品種の栽培者多し。其他臙脂黄麻(深紅皮種)を栽培するものあるも甚だ僅少なり。前述林仔庄には臺灣製麻株式會社購買員駐在し黄麻作奨勵として二三年前オトリアス(長莢青種及長莢斑縞種)種子を配布したる結果該種子を栽培せる者二三あるも皆住宅附近畑地に小面積宛栽培し、且つ分枝すること多く細莖なるにより收量在來種に比し劣るを以て栽培を希望するもの少なしと云ふ(當場試験成績に合致せり)。

三、輪栽法 土地の肥瘠により連作二年乃至四年輪栽を行ふ即ち次の如し。

(イ)黄麻—第二期水稻(休閑)—黄麻

(ロ)黄麻—第二期水稻(低脚烏殼)—黄麻

(ハ)黄麻—甘藷—甘藷—黄麻

(ニ)黄麻—甘藷—第一期二期水稻—煙草—第一期二期水稻—黄麻

四、整地 前作物の種類に依り多少之れを異にす。即ち豌豆及蔬菜類の栽培跡地は犁耕及耙耕二回に過ぎずと雖水稻跡地にありては水稻收穫後直に犁耕を行ひ其のま、放置し降雨を待つて刈耙にて土塊を碎きたる後尙一二回犁耕及耙耕を行ひ十分土塊を破碎し手耙を以て地面を均一ならしむ。

五、肥料 肥料の主なるものは土糞(主に牛糞と塵埃及土とを混和せるもの)人糞尿及大豆粕等にして、稀に落花生油粕を施用するものあり。以上數種肥料甲當施用量の多寡は土地の肥瘠、地方或は栽培者により各差異あること次の如し。

(イ)土糞三萬斤乃至四萬斤を單用す。

(ロ)土糞甲當一萬斤乃至一萬二千斤大豆粕十五枚乃至二十枚。

(ハ)土糞三萬斤 人糞尿一萬斤。

(ニ)土糞一萬斤 落花生油粕(一枚五斤位)三百枚。

六、播種 播種期甲當播種量畦幅株間を示せば次の如し。

播種期	三月下旬乃至四月上旬(清明前十日)	匏仔	四月下旬(清明四五日前後)
播種量	七升五合	畦	七升五合
畦幅	一尺五寸	株間	一尺五六寸
	間引きて四五寸		間引きて四五寸

播種方法は犁或は鋤にて作條を切り播種したる後土糞を覆ひ縦に刈把を掛けつゝ、覆土するか或は足にて覆土を行ふ。播種後四五日にて發芽す。

七、管理 林仔庄附近にては發芽後十日乃至十五日を経て第一回間引を行ひ後十四五日を経て株間五六寸に第二回間引を行ふ。除草中耕は前後三回にして第一第二回は間引の際同時に鋤にて行ひ第三回は培土の際即ち草丈二尺内外に生長せる頃培土と同時に進行す。而して培土の際には追肥を施すを普通とす。其他灌漑は水利の便ある地方を除き多く之れを行ふものなし。

匏仔寮附近にありては發芽後草丈五六寸より一尺内外迄の間に二三回間引を行ひ、株間を五六寸となす。除草は中耕を兼ね間引と同時に進行す。培土は前後二回にして第一回は草丈一尺内外の時第二回は草丈二尺内外の時行ふものとす。

八、病虫害 立枯病に侵さるゝもの少數宛各地に散見するも被害程度大ならず、虫害としては發芽當時根切蟲の被害あるも收量に影響を及ぼすことなしと云ふ。

九、收穫及收量 草丈十分生長したる後葉及皮部漸く厚さを増し莖色稍淡紅色となり且開花結實の初期を以て收穫の適期とす。此期に達せば灌水し得る地にありては必ず收穫前灌水後收穫を行ふ。其法林仔庄附近にありては幼麻を製するものなきにあらざるも主として粗麻のみを製造する

を以て圃地に生育せるまゝ、地上約一尺五六寸の處より黃麻挾仔に挫折し木質部を除き同時に生葉をも除去したる後黃麻整(嘉義西堡地方のものに比し小形にして多少形狀を異にせり)にて嘉義西堡地方と同一方法にて抜き取り製造所に運びて製造す。又匏仔寮附近にては粗麻製造をなすもの甚だ少なく幼麻製造をなすもの多し。之れ粗麻は主に製麻會社にのみ需要せられ價格に變動を來たす恐れあれば需要範圍廣き幼麻を製するを有利となす以所なり。而して其の收穫法は幼麻製造地なる嘉義西堡地方と殆んど同一にして唯嘉義西堡と異なるは抜き取り及剝皮を容易ならしむるため、收穫前に至り灌水する差あるのみ、次に收穫期及甲當收量を示さん。

林仔庄	收穫期	收量			百斤の價格		
		上	中	下	上	中	下
幼麻	七月下旬乃至(立秋前十日)	粗麻	至自	至自	至自	至自	至自
		五〇〇〇斤	三〇〇〇	四〇〇〇	三〇〇〇	四〇〇〇	三〇〇〇
匏仔寮	八月下旬(立秋後)	粗麻	至自	至自	至自	至自	至自
		五〇〇〇斤	三〇〇〇	四〇〇〇	三〇〇〇	四〇〇〇	三〇〇〇

備考 林仔庄附近に於て製麻會社は黃麻栽培を専業として粗麻纖維七尺以上のものを一等品となし、百斤に付二圓の賞金を與へ一等品以下は優劣の程度により之を二等品三等品に區別せり。

粗麻價格は臺灣製麻株式會社の購買價格を示せるものとす。

〇、採種 林仔庄及匏仔寮附近に行はるゝ採種法に二法あり甲法は嘉義西堡地方に行はるゝ方法と略同一にして收穫の際草丈長く分枝少なきもの、みを選び、莖上部を二尺内外に切斷し、之れを水田及埤圳濕地等に挿入し、十四五日間放置せば新根を生じ活着するを以て別に整地施肥せる

苗床に移植し、豚糞其他を混し腐熟せるものを水肥となし肥培すること四五十日に及べば開花結實し萌黄褐色となりたる時抜き取り屋上にて十分乾燥し後臼にて軽く搗きつゝ採種す。調製せる種子は竹筒及甕類に入れ濕氣を蒙らざる様貯藏す。乙法は各地方に行はるゝ方法にして收穫の際一部を残し置き九月下旬に至り莖上部結實せる部分のみを切斷し前法同様採種貯藏す。

七〇

#### 第六節 印度に於ける黄麻栽培法

一、地形及土質 印度に於ける黄麻栽培地は高原乾燥地を避け平坦なる低地にして濕潤なる土地に多く栽培せらる。而して土質は長莖種 (*Corchorus olitorius*) は球莖種 (*Corchorus capsularis*) に比し割合に瘠薄なる高燥地にも栽培せらるゝと雖、球莖種は之れに反し米、豆、煙草と輪栽し得る住宅附近の肥沃なる低地を良とす。

如斯種類により或は栽培地方により多少差異あるも高温且つ空氣濕潤なる地方にして生育期中降雨多き沖積土を以て最良とし、粘質壤土及壤土等之れに次ぎ礫土礫土及砂土等は生育不良なり。之れ粘質地は纖維強靱なるも砂土礫土及乾燥地は纖維粗剛となる缺點あればなり。

二、品種 印度に栽培せらるゝ黄麻は長莖種及球莖種の二種類なりとす。

三、輪栽 連作を行ふ時は枝極分枝するもの漸次増加するを以て輪栽は黄麻栽培に最も必要なる條件なりとす。之れがため收量の減退するを防ぐを得べく又肥料を經濟的に有效ならしむるの利益あり。故に印度にては芥菜類、稻、荳蔻類及煙草等と輪栽す。

四、整地 犁耕及耙耕回数は土質の如何に依りて差異あり。即ち粘質地は壤土及砂質地に比し犁耕及耙耕回数多からしむ。否らざれば土塊の粉碎十分ならざるを以て發芽の不齊を來たし收量に大なる影響を及ぼすものなり。之れを以て播種前普通四回乃至六回より多きは十二回耕起し、最後

に雜草根を「ハロー」にて掻き集め之れを燒棄し(其のまゝ、肥料に供用す)以て播種の準備を調ふ。

五、肥料 印度に於ける普通黄麻施用肥料は牛糞、草木灰、塵埃油粕類なりと雖、各地農事試験場に於て蓖麻油粕、骨粉、硝石、過燐酸石灰、カイニット、硫酸アンモニヤ等各種肥料施用品種に劣るを以て用途及目的より之れを粗製纖維用及精製纖維用の二種に區別せば前二品種を幼麻製造用として他三品種を精製纖維製造用として栽培するを有利とする以所なり。

試験を施行したる結果牛糞一エーカーに對し百五十マウンド(一マウンド八二、三封度)即ち段當四百八十四貫二百匁を施用せるものは牛糞中に含有せらるゝ同量の窒素を施せるものよりも尙優良なる成績を示せり。之れを以て印度にては牛糞を以て黄麻に對する最適肥料となし印度各地に賞用せらる。

六、播種 印度に於ける播種量畦幅株間及播種方法を示せば次の如し。

播種期 二月より六月の間に播種すと雖も普通三四月とす。

播種量 薄播にする時は纖維收量多きも纖維粗大となるを以て一エーカー六乃至八封度(段當七十六匁乃至二百三十五匁)或は一ヘクター五乃至十基丸(段當百三十二匁乃至二百六十四匁)を適量とす。之れを當場産種子一升重量平均三百二十匁とし換算せば段當播種量約四合乃至八合(百三十二匁乃至二百六十四匁とせば)にして甲當約三升九合乃至七升八合となる割なり。

畦幅 九吋(七寸五分餘)。

株間 四吋乃至六吋(三寸四分乃至五寸)を普通とするも八吋乃至十吋(六寸七分乃至八寸四分)となすもあり。



播種法は晴天の日を選び播種に使せんがため等量の砂を混して播下し軽く覆土するか或は把柄にて掻き混ぜ後「ローラー」にて壓鎮するもあり。又地方によりては撒播法により播種するもあり。播種後土地適當なる濕氣を有する時は二三日乃至四五日にて發芽す。

七、管理 播種後約十五日を経て除草及間引を行ふ爾後三四日毎に二三回除草中耕を兼ね間引を行ふ其他一般に粗放的栽培なるを以て甚だしきは播種後收穫時期に達する迄手入管理することなく其儘放置するものあり。

八、病蟲害 一般に病蟲害の被害少なく唯僅かに黃麻苗枯病(Rhizoctonia Solani Kuehn.)の外病蟲害のため生育及収量に影響を及ぼすが如きことなし。

九、收穫及収量 黃麻は播種後三箇月にして成熟すと稱し六月下旬より十月上旬に收穫するものありと雖八月中旬より九月下旬即ち播種後四五箇月を経て收穫するを普通とせり。而して收穫期は開花前を以て最適とす。開花結實後に至り收穫せるものは纖維収量多きも光澤なく、纖維粗大となり反つて強力を失ひ品位惡變するを以て價格を廉ならしむるの不利あり、收穫適期に達する時は大鎌或は機械にて地上四寸の處より刈り取り五六十莖を緩く結束し、其儘地上に放置し落葉せしめたる後浸水するものにして、本法により落葉後浸水する時は纖維の變色を豫防し得るものなりとて一部地方の如きは雜草又は土を以て之れを覆ひ三四日後葉を振ひ落し浸水するもあり。収量は勿論浸水法に依る精製纖維収量にして多きは一エーカー當十二マウンド(反當二十九貫四斗九甲當二千三百六十六斤)より多きは三十六マウンド(反當八十七貫百四十四斗九甲當七千二百斤)なり。而して少なきは六マウンド(反當十四貫五百二十斗九甲當千八百三十三斤)乃至九マウンド(反當二十一貫七百八十斗九甲當千七百七十六斤)にして平均約十四マウンド(反當三十一貫八百八

十八斗九甲當二千七百六十二斤)なり。以上の成績にて一エーカーの純益金二十乃至三十留比(纖維一マウンド二留比)なり。之れを我が反當に換算せば三圓十九錢乃至四圓七十八錢八厘にして甲當三十一圓十九錢八厘乃至四十六圓八十二錢七厘となる割合なり。孟買農務局の調査に係る管内生産黃麻一エーカー當収量を示せば次の如し。

年	號	一エーカー當	生莖に對する纖維歩合	反	當	甲	當
一九〇六	六	六〇元	二四五%	一七九元	一四〇元	一九六元	一九六元
一九〇七	七	八元	四七三%	二四〇元	二四〇元	一九六元	一九六元

### 第六章 臺灣主要産地に於ける黃麻纖維製造方法

黃麻纖維製造は之を粗製纖維製造法及精製纖維製造法の二種に區別す。而して粗製纖維製造法は更に之を分ちて幼麻及粗麻製造法の二種に、精製纖維製造法は之を生莖浸水法及粗製纖維(粗麻及幼麻)浸水法の二種に區別するを得べし。由來本島農家に於ける黃麻纖維の用途は繩網類結縛用及粗麻布原料に限られあるを以て舊慣上幼麻製造を主眼とせり。然るに近來(製麻會社設立以後)嘉義南投及臺南廳下に粗麻製造を行ふものあり。之粗麻は多く製麻會社に於て需要すると幼麻に比し製造法簡單にして製造費を節減し得る關係上之が製造を行ふに至れり。精製纖維製造法に至りては農家之が製法を知るもの各地共絶無なりとす。勿論本法に依り製出せられたる纖維はツツク、ガンニト袋製造用原料に供用せらる、外本島に於ては他に需要の途なく、主として製麻會社に於てのみに要需せらる、結果幼麻に比し販路比較的狭少なる嫌なき能はずと雖、生莖浸水法に依る精製纖維製

造は粗麻製造に比し遙に有利にして且製造費をも節減し得るのみならず、纖維價格に於ても三倍乃至五倍の高直を示せり。如斯を以て製麻會社を中心とし粗麻製造を行ふ地方又は會社と契約し得る地方及浸水法を行ひ得る便利の地に於て本法を實行せしむるは農家經濟上看過すべからざる問題なりとす。故に之等の地方に本法を奨励周知せしむるにより本島黃麻作改良上至大の影響を及ぼすものなるべし。以下當場に於て數年間繼續實施せる製造方法及各地主要産地に於ける幼麻及粗麻製造方法を述べ兩者製造上に於ける利害得失を比較對照し以て當業者の参考に資せんとす。

#### 第一節 當場に於ける黃麻纖維製造法

##### 一、幼麻製造法

幼麻は本島に於ける土名にして生莖を木質部及皮部(初生皮層(表皮、木栓質、綠皮)後生皮層(韌皮、篩管)及形成層を總稱する俗稱とす)に分離し、皮部表皮を剥ぎ取り韌皮部を乾燥せるものを云ふ。而して粗麻とは皮部の表皮を剥皮することなく皮部のま、乾燥せるものを云ふ。左に幼麻製造方法を記述せん。

畑地より引き抜き根に附着せる土を打ち落とし且竹刀を以て生葉を除去し(或は除去することなく)製造所(樹蔭地住宅附近或は圃場の一隅等便利の地を選定するものにして一定せず)に運搬し來れる原料を次の四種分業的方法により製造す。

- (イ)木質部の分離 全莖の三分の二以上の皮部と木質部とに分離する方法にして男二人にて之を行ふ。即ち甲者は生莖二本(大莖のものは一本細莖のものは二本)を取り上げ根部を把持し、乙者は木製或は竹製の麻箸(口徑七八分長さ一尺五六寸にして二本を用ふ地方により麻挾とも云ふ)にて挟み最初一二回生葉除去(收穫の際生葉を除去せざる場合)及皮部と木質部との分離を

容易ならしむる目的を以て軽く壓しつゝ、二人互に牽引す。此の場合甲者は數尺間退くものにして最後に同一要領にて強引せば木質部は麻箸にて壓迫せらるゝため容易に挫折し、乙者の牽引先端部に及ぶに従ひ皮部と木質部とに分離すべし。根部を把持せる甲者は之を身邊に堆積し次法に移す。

- (ロ)基部木質基部木質部分離 本項處理法は多く女子之に従事するものにして前項により分離せられたる殘部の木質部(莖の基部にして全莖の三分の一内外)を手にて剥き取りたる後基部七八寸の處を内部に折り曲げ表皮を剥き取るべし。之れ基部の表皮他部に比し厚きを以て乾燥後製繩に際し接續に便利なる關係上次項作業前之を行ふ。斯く取扱はれたるものは根梢部を混同することなく身邊に堆積し次法に移す。

- (ハ)剥皮 本項處理法は男女何れを問はず凡て二人にて黃麻刀を以て行ふ。即ち前項により木質部と皮部とに分離せる生皮部の表皮を剝離する方法にして、表皮の剝離を容易ならしむるため暫時清水中に浸漬したる後甲者は生皮部を身邊便宜の處に置き之より一本宛を取り上げ、基部一尺内外の表皮を豫て結縛し置ける黃麻刀にて剥き去り、再び之を黃麻刀に挟めば反對側にある乙者は剥皮せる部分を握り急引せば表面は黃麻刀にて除去せられ、生幼麻となる之を身邊適宜の位置に重ね置き次法に移す。

- (ニ)乾燥及結束 前項により剥皮製造せる生幼麻を乾燥結束する方法にして乾燥場は別に設置することなく之を地上、竹或は鐵線等に掛け乾燥すること晴天一二日間とす。之幼麻なり。而して十分乾燥せる幼麻は適宜結束し販賣用に供するか或は其儘貯藏し置き家用に供するものとす。以上の方法は地方により多少差異あるも多く北部地方に行はるゝ方法にして該纖維は主と

して製繩及粗麻布用として消費せらる。

## 二、精製纖維製造法

本法は幼麻及粗麻を浸水製造する幼、粗麻再製法とも稱すべきもの及生莖浸水法との二種に區別すること前述の如し。前者は目下臺灣製麻株式會社に於て製造しつゝある方法にして、當場にありては専ら生莖浸水法を採用せり。即ち收穫せる黃麻生莖の生葉を除去するか或は其儘（跡地に肥料を返還する意味に於ては生葉を圃場にて除去する可とす）にて適宜結束し、莖部二尺内外を水中（溝渠或は池水何れにても可なり）に樹て二三日間浸水放置す。否らざれば全莖浸水の際根梢部の腐熟均一を缺く缺點あるを以て、皮層厚き基部のみを最初浸水する所以なり。斯くして基部稍腐敗を來すに至れば豫て設けある浸水池（池、瀦水を利用するも可なり）中に横へ池中の底土と直接接觸せざる如くに丸太を置くか、或は其他の設備をなし、束を相疊重（浸水池の深淺により二列三列或は四列となす等加減するを要す）したる後注水し、且各束浮上せざる様結縛するか或は重石を置き上方莖束よりの水深を一尺内外とし、可成日光を遮斷して腐熟せしむるを良とす。若し水淺く且日光透射する時は纖維灰黑色に惡變し纖維の品位をして劣等ならしむるものなり。浸水日数は氣温水深及水温により差異あるものにして腐熟日數早きに過ぐる時は纖維の分離困難なるべく、又晚きに失する時は纖維殊に先端部の強力を著しく減退せしむ。之を以て浸水適度を失せざる様注意するを肝要とす。即ち普通黃麻收穫時に於ける氣温にありては浸水後十日乃至十五日間内外に至り一二本を引き出し、水中に入れ木質部の上より手にて腐敗物を挽き落し、見るに皮部組織十分腐熟し纖維のみとなり木質部と容易に分離し得るに至れば浸水の適度を示せるものなり。故に此期に達せば浸水池より束を順次取り上げ（殘部は日光に直射せざる様注意せざれば直に灰黑色に變色するを以てな

り）清水或は流水中にて腐敗せる部分を流しつゝ、木質部と纖維とを分離し、直に晴天二三日間乾燥すべし。之精製纖維なり。如斯にして製出し得たる纖維は叙上記述せるが如くガンニー袋及ツツク製造原料に供用せらる、生莖浸水法による纖維收量成績は第五章第一節九を参照すべし。若し纖維灰黑色にして漂白の必要ある時は「クローラルカリ」（工業用）溶液中（濃度は纖維灰黑色の程度により増減するを要す）にて乾燥前處理するを要す。

## 第二節 嘉義廳下に於ける黃麻製造法

### （一）嘉義西堡地方

該地方にありては凡て幼麻製造にして黒麻鑿を以て收穫し生葉を除去せる生莖を便宜の場所（主として住宅附近）に運搬し置きて製造す。方法は當場に於ける幼麻製造法と異なり次の三種分業的方法に依り製造す。

イ木質部分離 本項作業は悉く婦女子之に従事するものにして、當場に於けるイ項に該當するものとする。其方法は腰掛用長椅子に跨り莖頂部の皮部最も薄き枝極分枝せる直下を手にて折り、木質部を抽出せしめ、最初枝極部に向け右手にて剥皮し、左手の人指を木質部と皮部の中間に位置せしめ右手にて皮部を握りたる儘引きて莖部に向け剥皮を行ひ、木質部は之を左方に置き皮部は長椅子上に堆積す。此際若し生莖大なる時は皮部を二分し、第一回は半分を剥皮し第二回に全部を剥皮し、次作業に移す。

前法により生ずる木質部は當場に於けるが如く破碎せらるゝことなく、殆んど全莖完全に分離するを得べし。該木質部は製造の多寡を論せず凡て製造に従事せる婦女子の所得にして、之がため勞働賃金として支拂ふことなく木質部を以て代用する舊慣なりとす。之れ木質部は農家の

好燃料たるを以てなり。

- ロ) 剥皮 本項は當場に於けるハ)項と同一方法により剥皮(表皮)するものにして、多く男子之に従事す。黄麻刀の形状北部地方と多少異なるも剥皮要領當場に於ける方法と同一なり。
- ハ) 乾燥及結束 當場ニ項と同一にして直接地上に一莖分宛を排列乾燥すること晴天一二日間にして十分乾燥するに至れば之を適宜結束して販賣及自家用に供す。

(二) 打猫北堡地方

該地方に於ける黄麻製造法は製麻會社にて栽培奨励をなしつゝ、ある關係上粗麻を主とし、幼麻は自家用に供する分のみ嘉義西堡地方と同一方法により製造するを以て、之を省略し粗麻製造法を左に記述せんとす。

- イ) 木質部分離 甘蔗刀にて根際より切り倒し生葉附著のまゝ、收穫せる生莖を嘉義西堡と同一方法により皮部と木質部とに分離す。而して木質部は就業者の所得として分與すと雖雇主に於て之を各就業者居宅迄運搬し給與するを異にせり。
  - ロ) 乾燥及結束 前項により木質部を分離したる皮部は尙幾分生葉を附著しあるも其儘地上にて乾燥すること二三日にして十分乾燥するに至れば葉の附著せる部分を石、煉瓦等に打ち付け、之を除去し、一把十斤内外となし後五把宛を結束し販賣用に供す。
- 以上粗麻製造法は纖維價格に於て幼麻に比し廉價なるも製造費を節減し得ること大なるを以て單に粗麻製造のみに關し收支關係を計算せば農家の經濟上大なる影響を及ぼすことなきも、收穫法の差異即ち抜き取り法と株切り法とにより収量上に及ぼす影響を調査するに、株切法は抜き取り法に比し粗麻甲當千斤の損失ありとて該地方栽培者等しく株切法を忌むの傾向あるを認めたり。

(三) 龍蛟潭堡地方

該地方に於ては幼麻製造を主とし粗麻製造者少し。製造法は幼麻にありては嘉義西堡に粗麻製造にありては打猫北堡に準せり唯木質部の處分方法は前述二地方と同一分與するも遠隔のものに限り木質部を與ふる外一日五六錢の賃銀を支拂ふの差あり。

第三節 臺中廳下に於ける黄麻製造法

(一) 北斗支廳下

該地方は主に幼麻製造にして時に或は請負製造をなさしむることあり。即ち收穫(抜き取り法)のみにて一甲四圓、製造(木質部分離及剥皮)は乾纖維百斤に對し二圓の割とす。左に幼麻製造法を述べん。

- イ) 木質部分離 嘉義廳嘉義西堡地方と凡て同一なり。
- ロ) 剥皮 男女何れも従事するものにして黄麻刀にて剥皮すること嘉義西堡に同じ。
- ハ) 乾燥及結束 地上にて一本宛排列乾燥すること一二日間にして十分乾燥後三四斤位の小束となし、後長さ五尺内外重量四五十斤位の大束となし、三ヶ所を結縛し販賣用に供す。

(二) 員林支廳下

北斗支廳下と同じく幼麻製造を主とす。即ち左の如し。

- イ) 木質部分離 木質部の分離法は嘉義西堡と同一にして尙基部の表皮七八寸は次項作業前當場と同じく手にて剥皮す。木質部の處分法は他地方と同じく之を給與するものと否らざるものとの二種あり。給與せざる場合は六日間一圓(給食)の賃銀を支拂ふものとす。

(ロ) 剥皮 本項亦嘉義西堡と同一にして主として男子のみ就業す。  
 (ハ) 乾燥及結束 地上にて一二日間十分乾燥したる後四五斤位の小束となし更に北斗支廳下と同一方法にて五六十斤の大束に結束し販賣用に供す。

第四節 臺南廳下に於ける黃麻製造法

(一) 長興下里地方

臺南廳下は一般に粗麻製造を行ふもの多く該地方に於ても専ら粗麻のみを製造す即ち左の如し。  
 (イ) 木質部分離 木質部分離は女のみ就業すること嘉義西堡に同じく、方法又同一なり。而して分離せる皮部は一々内面を上にし長椅子上に堆積して次法に移す。木質部處分は他地方と同じく作業者に給與するものと、賃銀一日十二錢を給し木質部を給與せざるものとの二種あり。  
 (ロ) 乾燥及結束 乾燥法は皮部の表面即ち表皮部を上にし、地上に一本宛排列し二三日間乾燥す。十分乾燥せば一束三十五斤位の大束となし、四ヶ所を結縛す。此際束の外層のみは粗麻の内面白色平滑なる部分を表はし、以て結束後に於ける外觀を飾り以て販賣用に供す。

(二) 歸仁北里

該地方も前記長興下里地方と同じく粗麻製造にして之が製法亦殆んど同一なり。唯木質部分離に就業せる女子に對する賃銀は全く支拂ふことなく、各自分離せる木質部全部を給與すると、乾燥後の結束は五六十斤位の大束となすの差異あるのみ。

第五節 南投廳下に於ける黃麻製造法

(一) 南投堡

林仔庄附近に於ける黃麻製造法は凡て粗麻にして他廳下と稍製法を異にせり即ち次の如し。

(イ) 木質部分離 本項は前章同廳下栽培法收穫の部に於て記述せる如く圃上にて生葉除去と共に男子主として之を行ふ。

(ロ) 基部木質部分離 本項は前項處理後便宜の場所に運び女子之に従事するものにして、手を以て殘餘の木質部を分離し次法に移す。

(ハ) 乾燥及結束 木質部と分離せる皮部は表裏の別なく地上に擴げ二三日間乾燥し十分なるに至れば一束六七斤内外の小束に結束し、後小把八束位重量四五十斤乃至五六十斤長さ五尺内外の大束となし、三ヶ所を結束して販賣用に供す。

(二) 北投堡

匏仔寮庄附近は幼麻製造をなすこと前章に記述せるが如し即ち次の如し。

(イ) 木質部分離 本項分離方法は嘉義西堡と同一にして女子之に従事す。

(ロ) 剥皮 男女の別なく従事するものにして黃麻刀を以て剥皮すること嘉義西堡と同一なり。

(ハ) 乾燥及結束 地上或は適宜の方法にて一二日間乾燥し六斤の小束に結束したる後大束五十斤位となし四ヶ所を結縛して販賣用に供す。

第六節 印度に於ける黃麻製造法

收穫後脱葉せる生莖を浸水池に浸漬前豫め水質の如何を研究し置くものとす。印度にて鐵分を含む有する水は纖維を赤變するものなりとて如斯浸水池は之を避け良質の水を選びて浸漬するを良とす。而して流水(纖維の品質優良なり)或は瀦水(纖維の品質前者に比し劣れり)中に根梢部を交互に重疊浸漬し、材木を横たへ生莖の水上に浮揚するを 방지、其儘放置して腐熟せしむ。浸水期間は水質及品種により或は氣温の如何等によりて差異あるも、普通十日乃至二十五日間位を適度とす。浸

水期間長きに失する時は繊維の腐敗を來たし、損失を招く事あるを以て之が適否の鑑別を過たざる様時々浸水池を見廻はるを必要とす、又紅皮種と青皮種とを混じて浸水する時は青皮種は紅皮種の莖程部其他より分解浸出する著色液のため汚染し、品位を劣悪ならしむるものとなし、別々に浸水す。又開花前と開花後に收穫せるものある時は之を混合せざるを良とす。之れ兩者繊維の品位を異にすればなり。

斯くして浸水全きに至れば就業者は浸水池中に入り莖程部を打ち付け、木質部と繊維とを分離するもの及槌にて全莖を打ち碎き繊維を分離する方法ありと雖、最も廣く行はる、方法は莖程部を槌にて叩きつ、繊維の分離を容易ならしめ、一莖宛木質部と繊維とを分離し一握十分なるに至れば之を水面に打ち付け、不純物を除去したる後更に水面に擴げ十分不純物を除去洗滌したる後水を絞りと之を竹に結縛し、二三日間陽乾し直に一梱百八十基瓦となし、市場に搬出するものとす。其他尙機械分離を行ふ方法ありと雖生産費の不廉なると純繊維を得る能はざる缺點あるを以て、浸水法は例令原始的製法なるにも拘はらず生産費の廉なると直に純繊維を得るの利益あるは勿論地方農家の製造にも適するを以て、現今に於ても尙印度各地に行はる、所以なり。以上製出纖維優劣等級の標準とも稱すべきは色合、光澤の有無良否長短、剛柔の齊否如何及纖維洗滌の精粗如何により決定せらるゝものとす。

以上製法によりて製出せる纖維は其品位如何により各種の名稱を附し以て優劣を示し取引上の便に供せり即ち次の如し。

- (一) Superior First 黃麻纖維中最上優良品にして一俵四百封度中にCと稱するもの及Dと稱するもの各二百封度宛を各別に壓搾したるものとす。本種に屬するものは帆布(カンバス)の如き上等

品の製作用に供せらるゝを以て Hessian Silk と稱せらる。

- (二) First 本種中には2號及3號との二種ありて前種と同じく一俵四百封度の内二百封度宛各別に一俵中に壓搾せるものにして、一名 Crack と稱し、黃麻纖維中の標準品なり。
  - (三) Dacous 前種に次ぐ纖維にして一俵四百封度中に2號及3號品を各二百封度を各別に壓搾するものと前種に異らず。
  - (四) Lightning 2號及3號品を一俵四百封度中に壓搾すること前種に異らず。
  - (五) Mangos 2號及3號品を混じ壓搾すること前種に異らず。
  - (六) Heart. 2號及3號品を混じ壓搾すること前種に異らず。
  - (七) Good Daisee 一俵四百封度中A八十封度B二百四十封度C八十封度を各別に壓搾す。
- 以上七種を總稱して Group. 物と稱す。此外尙 Cutting 及 Rejection と稱するものあり。即ち Cutting と稱するものは莖の基部五六寸に切り捨てたるものより製造せるものにして前記 Group 物の中何れかと混合使用す。又 Rejection と稱するは前記 Group 物の何れにも屬すること能はざる下等品を總稱せるものにして使用の際 Group 物中に混合す。(續)

### 第七章 臺灣主要産地に於ける黃麻甲當栽培製造收支計算

農作物栽培製造及加工等に關し農民に就き之が經濟上の諸調査を遂げんとするや事甚だ至難の業なりとす。即ち同一地に於ける同一作物と雖尙相一致符合せざるは勿論、兩者逕庭甚しく信偽其何れなるやを疑はしめ、到底之が比較對照だもなし得ざるが如き事實を發見すること一再ならざるは屢々吾人の經驗する處なり。之れ民度習慣及方式を異にすると計數の不備不完なるは勿論凡て目測

見當に依り打算判断するを以てなり。加ふるに經濟調査をなすもの凡て稅務官吏と誤信し、或は附加稅を課するにあらざるやを疑ひ生産利益の最少額を以て之が最上極限となす等其正鵠を缺く主因なりとす。以下各主要産地に於ける本調査は特に以上の諸點に注意し最上最下を避け可成中位を採り、取捨參酌し以て完璧を期せんことを努めたるも尙未だ十分悉さざる點甚だ多し。唯栽培の條下と比較對照せば本島に於ける黃麻栽培の大體を推知するに足らん。

第一節 嘉義廳下に於ける黃麻甲當栽培製造收支計算  
(イ) 嘉義西堡湖仔内庄(吳廷、羅益富)

種目	金額	數量	單價	備考
收入計	一九五〇〇			
幼麻	一九五〇〇	三〇〇〇斤	六五〇	
支出計	九七〇〇			
肥料(土糞)	一〇〇〇	八車	〇・二五	
種子	一〇〇〇	一車	〇・二五	
犁耕	〇・八〇〇	二人男	〇・四〇	犁耕二回とし一回四人とす
牛付男	〇・八〇〇	八人牛付男	〇・一〇〇	
手把	〇・八〇〇	二人同	〇・四〇	手把二回とし一回一人とす
刈把	〇・八〇〇	二人同	〇・四〇	刈把二回とし一回一人とす
除草及中耕	〇・四〇〇	二人男	〇・二〇	作條切り播種及覆土とす
間引	〇・四〇〇	二人男	〇・二〇	
培土	〇・八〇〇	二人牛付男	〇・四〇	
收穫調製	〇・八〇〇	二人牛付男	〇・四〇	男は收穫女は乾燥及結縛とす
小作料	〇・二五〇	五〇人男女	〇・五〇	五六畝田とし一箇年租穀二十石とし一石四圓六十錢にして半期分
農具損費	五〇〇〇			
雜費	五〇〇〇			

差引純益金九十五圓三十錢  
備考 收入中木實部を計上せざるは就業者に分與し賃銀を支拂はざるを以て調製費と差引き何れにも計上せず。

(ロ) 打猫北堡大埤頭庄 (張禮頭 外二名)

種目	金額	數量	單價	價	備考
收入計	二二〇〇〇				
租	三三〇〇	三五〇斤		三六〇	
支出計	九九〇〇				

種目	金額	数量	量單	價	備	考
種肥(土糞)	2100	九車	0.055	0.200		
肥料(土糞)	4500	一車	0.500	0.500		
地肥(元肥)	0.800	二男	0.800	0.800		
地肥(元肥)	0.800	二男	0.800	0.800		
地肥(元肥)	0.800	二男	0.800	0.800		
地肥(元肥)	0.800	二男	0.800	0.800		
地肥(元肥)	0.800	二男	0.800	0.800		
地肥(元肥)	0.800	二男	0.800	0.800		
地肥(元肥)	0.800	二男	0.800	0.800		
地肥(元肥)	0.800	二男	0.800	0.800		
除草及中耕	1.200	二男	0.600	0.600		
間引	1.500	一男	0.750	0.750		
培土	1.900	三男	0.950	0.630		
收穫及調製	1.400	三男	0.700	0.640		收穫刈取男二十六人乾燥、葉の除去及結縛男十人
小作料	2.000	一男	1.000	0.500		
農具損	2.000	一男	1.000	0.500		
雜費	2.500	一男	1.250	0.500		病害蟲、驅除木質部運搬及其他
合計	67500					

差引純益金三十四圓十錢  
備考 木質部を計上せざる理由嘉義西堡に準ず。  
(ハ)龍蛟潭堡義竹園庄 (翁賞、翁春、翁登臣)

種目	金額	数量	量單	價	備	考
種肥(土糞)	2100	九車	0.055	0.200		
肥料(土糞)	4500	一車	0.500	0.500		
地肥(元肥)	0.800	二男	0.800	0.800		
地肥(元肥)	0.800	二男	0.800	0.800		
地肥(元肥)	0.800	二男	0.800	0.800		
地肥(元肥)	0.800	二男	0.800	0.800		
地肥(元肥)	0.800	二男	0.800	0.800		
地肥(元肥)	0.800	二男	0.800	0.800		
地肥(元肥)	0.800	二男	0.800	0.800		
地肥(元肥)	0.800	二男	0.800	0.800		
除草及中耕	1.200	二男	0.600	0.600		
間引	1.500	一男	0.750	0.750		
培土	1.900	三男	0.950	0.630		
收穫及調製	1.400	三男	0.700	0.640		收穫刈取男二十六人乾燥、葉の除去及結縛男十人
小作料	2.000	一男	1.000	0.500		
農具損	2.000	一男	1.000	0.500		
雜費	2.500	一男	1.250	0.500		
合計	58500					

差引純益金九圓十五錢  
備考 木質部より計上せざる理由嘉義西堡に準ず。  
第二節 臺中廳下に於ける黃麻甲當栽培製造收支計算



(イ) 武西堡 崙仔庄(黃榮頭)

種目	收入計		支出計		種目	金額	田數	地量	單價	備考
	田	地	田	地						
金	12,100	12,100	10,695	10,695	田					
地	1,100	1,100	925	925	地					
種	內	內	內	內	種					
肥料	3,500	3,500	3,500	3,500	肥料					
土	1,800	1,800	1,800	1,800	土					
人糞	1,200	1,200	1,200	1,200	人糞					
種	3,500	3,500	3,500	3,500	種					
整地	1,000	1,000	1,000	1,000	整地					
犁	800	800	800	800	犁					
手	1,000	1,000	1,000	1,000	手					
石	560	560	560	560	石					
犁	1,000	1,000	1,000	1,000	犁					
間	1,000	1,000	1,000	1,000	間					
除	1,000	1,000	1,000	1,000	除					
草	1,000	1,000	1,000	1,000	草					
及	1,000	1,000	1,000	1,000	及					
中	1,000	1,000	1,000	1,000	中					
引	1,000	1,000	1,000	1,000	引					

間引を兼り除草を行ふ

種目	收入計		支出計		種目	金額	田數	地量	單價	備考
	田	地	田	地						
金	12,100	12,100	10,695	10,695	金					
地	1,100	1,100	925	925	地					
種	內	內	內	內	種					
肥料	3,500	3,500	3,500	3,500	肥料					
土	1,800	1,800	1,800	1,800	土					
人糞	1,200	1,200	1,200	1,200	人糞					
種	3,500	3,500	3,500	3,500	種					
整地	1,000	1,000	1,000	1,000	整地					
犁	800	800	800	800	犁					
手	1,000	1,000	1,000	1,000	手					
石	560	560	560	560	石					
犁	1,000	1,000	1,000	1,000	犁					
間	1,000	1,000	1,000	1,000	間					
除	1,000	1,000	1,000	1,000	除					
草	1,000	1,000	1,000	1,000	草					
及	1,000	1,000	1,000	1,000	及					
中	1,000	1,000	1,000	1,000	中					
引	1,000	1,000	1,000	1,000	引					

差引純益金 田地二十四圓十五錢 畑地二十二圓二十五錢

(ロ) 東螺東堡田尾庄 (王化成、陳訪)

備考 木質部に計上せざるは嘉義西堡と同一理由による。

種目	收入計		支出計		種目	金額	田數	地量	單價	備考
	田	地	田	地						
金	12,100	12,100	10,695	10,695	金					
地	1,100	1,100	925	925	地					
種	內	內	內	內	種					
肥料	3,500	3,500	3,500	3,500	肥料					
土	1,800	1,800	1,800	1,800	土					
人糞	1,200	1,200	1,200	1,200	人糞					
種	3,500	3,500	3,500	3,500	種					
整地	1,000	1,000	1,000	1,000	整地					
犁	800	800	800	800	犁					
手	1,000	1,000	1,000	1,000	手					
石	560	560	560	560	石					
犁	1,000	1,000	1,000	1,000	犁					
間	1,000	1,000	1,000	1,000	間					
除	1,000	1,000	1,000	1,000	除					
草	1,000	1,000	1,000	1,000	草					
及	1,000	1,000	1,000	1,000	及					
中	1,000	1,000	1,000	1,000	中					
引	1,000	1,000	1,000	1,000	引					

種	目	金額	額數	量單	價	備	考
收	入計	二八六〇〇					
織	木質	一四〇〇〇		一八〇〇斤	八〇〇〇		
支	出計	二六九〇〇					
種	肥料	三二五〇		〇〇〇〇一升	〇六五		
整	地	一〇〇〇〇		八叭一叭	一六〇〇		
播	種	三〇〇〇		二五〇頭牛	〇四〇〇		
除	草中耕	九〇〇〇		一五〇頭牛	〇四〇〇		
其	他管理	一〇〇〇〇		五〇人男	〇四〇〇		
收	燥及調製	一〇〇〇〇		二五人右	〇四〇〇		乾燥に男六人を要す
公	租	四〇〇〇		三一人男	〇四〇〇		地租、附加税、農會費及土地整理費等合計せるもの
農	具損	二〇〇〇		四〇人女	〇四〇〇		害蟲驅除に男十人石油二升を要するものとして計
雜	費	四〇〇〇					
內	譯	二六九〇〇					

(ハ) 臺中廳農會鹿港支會にて管内二林上堡西勢厝庄中等畑に就き調査せしものを参考のため擧ぐれば左の如し。

差引純益金 田地二十九圓六十五錢  
畑地四十二圓二十錢

種	目	金額	額數	量單	價	備	考
施	大豆粕	一八〇〇〇		一二枚	一五〇〇		
施	犁肥	二〇〇〇		六人男	〇四〇〇		
整	犁肥	九〇〇〇		二人牛付男	〇六〇〇		
整	手犁	二〇〇〇		四人同	〇六〇〇		
整	石輪	六〇〇〇		四人同	〇六〇〇		
整	刈	二〇〇〇		一人同	〇六〇〇		
播	種	五六〇〇		二人同	〇六〇〇		
除	草及中耕	五七〇〇		八人同	〇六〇〇		
間	引	三七〇〇		上牛付男	〇二五〇		
培	土	一八〇〇		二五人女	〇一五〇		
收	獲及調製	一六〇〇		三人男	〇六〇〇		
小	作	四三〇〇		三〇人男	〇四〇〇		小作耕半期分を計上せり
農	具損	二五〇〇		七五〇十石	三三〇〇〇		
雜	費	二五〇〇					

製造

20000男

50人同

04000

差引純益金十錢

(イ) 第三節 臺南廳下に於ける黃麻甲當栽培製造收支計算

種目	金額	數量	量單	價	備	考
種目	金額	數量	量單	價	備	考
收入計	一五八七〇	—	—	—	—	—
支出計	一〇四三〇	—	—	—	—	—
種目	金額	數量	量單	價	備	考
種肥料	一〇〇〇〇	—	—	—	—	—
土人糞	二〇〇〇	—	—	—	—	—
肥料	四〇〇〇	—	—	—	—	—
犁	三六〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	一〇五〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二八〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二八〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二八〇〇	—	—	—	—	—
手刈	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—
種肥料	一〇〇〇〇	—	—	—	—	—
土人糞	二〇〇〇	—	—	—	—	—
肥料	四〇〇〇	—	—	—	—	—
犁	三六〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	一〇五〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二八〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二八〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二八〇〇	—	—	—	—	—
手刈	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—
種肥料	一〇〇〇〇	—	—	—	—	—
土人糞	二〇〇〇	—	—	—	—	—
肥料	四〇〇〇	—	—	—	—	—
犁	三六〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	一〇五〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二八〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二八〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二八〇〇	—	—	—	—	—
手刈	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—
種肥料	一〇〇〇〇	—	—	—	—	—
土人糞	二〇〇〇	—	—	—	—	—
肥料	四〇〇〇	—	—	—	—	—
犁	三六〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	一〇五〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二八〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二八〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二八〇〇	—	—	—	—	—
手刈	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—

九三

(二) 差引純益金三十一圓六十六錢 臺中廳農會二林支會に於て中畑に付(調査地不明)調査せるものを参考のため擧ぐれば次の如し。

種目	金額	數量	量單	價	備	考
種目	金額	數量	量單	價	備	考
收入計	七〇〇〇	—	—	—	—	—
支出計	七一〇〇	—	—	—	—	—
種肥料	二二〇〇	—	—	—	—	—
土人糞	二〇〇〇	—	—	—	—	—
肥料	二〇〇〇	—	—	—	—	—
犁	二〇〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二〇〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二〇〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二〇〇〇	—	—	—	—	—
手刈	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—
種肥料	二二〇〇	—	—	—	—	—
土人糞	二〇〇〇	—	—	—	—	—
肥料	二〇〇〇	—	—	—	—	—
犁	二〇〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二〇〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二〇〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二〇〇〇	—	—	—	—	—
手刈	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—
種肥料	二二〇〇	—	—	—	—	—
土人糞	二〇〇〇	—	—	—	—	—
肥料	二〇〇〇	—	—	—	—	—
犁	二〇〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二〇〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二〇〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二〇〇〇	—	—	—	—	—
手刈	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—
種肥料	二二〇〇	—	—	—	—	—
土人糞	二〇〇〇	—	—	—	—	—
肥料	二〇〇〇	—	—	—	—	—
犁	二〇〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二〇〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二〇〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二〇〇〇	—	—	—	—	—
手刈	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—
種肥料	二二〇〇	—	—	—	—	—
土人糞	二〇〇〇	—	—	—	—	—
肥料	二〇〇〇	—	—	—	—	—
犁	二〇〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二〇〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二〇〇〇	—	—	—	—	—
犁牛	二〇〇〇	—	—	—	—	—
手刈	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—

大豆粕粉碎九十錢として計上せり

九二

種目	金額		田數	地量	單價	備考
	田	地				
播種	3,000	同	2人	0.00	0.00	
除草及中耕	3,800	男	6人	0.00	0.00	
間引	1,800	女	1人	0.00	0.00	
培土	1,000	牛付男	2人	0.00	0.00	
收穫及調製	3,000	女	1人	0.00	0.00	
小作料	10,000	男	5人	0.00	0.00	
農具損	2,500	女	2人	0.00	0.00	
雜費	2,500	男	1人	0.00	0.00	
合計	25,000					

差引純益金五十四圓四十八錢  
備考 木質部を計上せざるは嘉義西堡と同一理由による。  
歸仁北里歸仁北里庄 (劉分外二名)

種目	金額		田數	地量	單價	備考
	田	地				
收入計	1,000	10,000				
粗麻	1,000	10,000				
支出計	2,700	2,700				
合計	1,000	10,000				

種目	金額		田數	地量	單價	備考
	田	地				
種子	3,000	同	2人	0.00	0.00	
肥料	2,600	同	6人	0.00	0.00	
施肥	2,000	男	6人	0.00	0.00	
整地	2,000	男	6人	0.00	0.00	
犁	2,000	男	6人	0.00	0.00	
耙	2,000	男	6人	0.00	0.00	
手把	2,000	男	6人	0.00	0.00	
播種	2,000	男	6人	0.00	0.00	
除草及中耕	3,600	男	6人	0.00	0.00	
間引	3,000	女	1人	0.00	0.00	
培土	3,000	牛付男	2人	0.00	0.00	
收穫及調製	3,000	男	3人	0.00	0.00	
小作料	10,000	男	5人	0.00	0.00	
農具損	2,000	男	3人	0.00	0.00	
雜費	2,000	男	3人	0.00	0.00	
合計	25,000					

差引損益金 田地十四圓三十錢益  
畑地八圓七十錢損  
備考 木質部を計上せざるは嘉義西堡と同一理由による。  
(ハ) 臺南廳農會にて畑地栽培に就き調査(調査地不明)せるものを参考のため舉ぐれば次の如し。

種 目	金 額	數	量 單	價	備	考	支		收	
							出	入	出	入
織 質	四三〇〇〇		一五〇〇斤	三〇〇〇			二二六七〇	一四〇〇〇		
木 質	一四〇〇		一〇〇斤	一四〇〇						
種 子	一七五〇〇		〇・〇〇〇一升	〇・二五〇						
肥 料	二七〇〇〇		三五〇〇〇斤	〇・九〇〇						
整 地	六五〇〇		三〇人牛付男	〇・二一〇						
播 種	一〇〇〇〇		一四人男	〇・七五〇						
手 入	一〇〇〇〇		二六人男	〇・三八〇						
收 穫	一〇〇〇〇		五〇人男女	〇・二〇〇						
小 作	四〇〇〇〇			〇・一〇〇						
農 具	二〇〇〇			〇・一〇〇						
損 料										
內 計	二二六七〇									
內 計	一四〇〇〇									

差引損益金六十七圓二十三錢損  
 第四節 南投應下に於ける黃麻甲當栽培製造收支計算

種 目	金 額	數	量 單	價	備	考	支		收	
							出	入	出	入
種 子	一七五〇〇		〇・〇〇〇一升	〇・二五〇						
肥 料	二七〇〇〇		三五〇〇〇斤	〇・九〇〇						
施 肥	三三〇〇〇		一五枚一枚	一・五〇〇						
整 地	九二〇〇〇		三人牛付男	〇・三〇〇						
播 種	二八〇〇〇		四人男	〇・七〇〇						
手 入	一〇〇〇〇		二人男	〇・四〇〇						
除 草	三九〇〇〇		三人男	〇・一三〇						
間 引	三〇〇〇〇		五人女	〇・一〇〇						
內 計	二二六七〇									
內 計	一四〇〇〇									

水稻跡地の整地にして畑地にありては尙牽耕回數を減するものとす

(イ) 南投堡林仔庄 (王金杆、王矮高)

種目	金額	数量	單位	備考
培土	1800	1人	男	
收穫及調製	2000	2人	男	
小作料	3000	50人	男	
農具損料	1000			
雜費	1000			

差引純益金十圓六十錢  
備考 木質部を計上せざるは嘉義西堡と同一理由による。  
北投堡匏仔寮庄 (李述外二名)

種目	收入計		支出計	
	金額	数量	金額	数量
粗麻	22500		12200	
幼麻	22500		12200	
粗麻		5000		5000
幼麻		4500		4500
粗麻		3900		3900
幼麻		5500		5500

種目	金額	数量	單位	備考
肥料	2000	2000	斤	
肥料	1500	1000	斤	
肥料	2800	7人	男	
肥料	16000	20人	男	
肥料	4000	5人	男	
肥料	4000	5人	男	
肥料	6000	5人	男	
肥料	5600	4人	男	
肥料	7500	3人	男	
肥料	4000	2人	男	
肥料	2000	5人	男	
肥料	5000	2人	男	
肥料	2500	2人	男	
肥料	2500	2人	男	

差引純益金 粗麻五十一圓六十錢  
幼麻七十四圓六十錢  
備考 木質部を計上せざるは嘉義西堡と同一理由による。  
南投廳農會にて田地栽培に就き調査(調査地不明)せるものを参考のため擧げんに次の如し。

種目	金額	自		量	單價	備考
		作	小			
收入	330,000	330,000				
支出	223,100		223,100			
種	10,000					
肥料	9,750					
大豆粕	6,000					
役畜	6,000					
整地及播種人夫	5,000					
間引及其他手入	10,000					
收穫製造	30,000					
農具損料	0,500					
借地料	5,000					
地租及其他	5,600					
木質部	15,000					
織維	35,000					
内訳						
種子	0.50			同	1.00	
土糞	1,500			同上	0.50	
大豆粕	1,000			同上	0.50	
水牛	20頭			同上	0.50	
水牛	20頭			同上	0.50	
人夫	100人			同上	0.50	
人夫	20人			同上	0.50	
人夫	140人			同上	0.50	
收穫製造	30,000			同上	0.50	
農具損料	0,500			同上	0.50	
借地料	5,000			同上	0.50	
地租及其他	5,600			同上	0.50	

田栽培なるを以て水租四割を等分せるもの

稲作に準ずる租額年三十石（百五十圓）の半額分

地租、附加税、土地整理費及農會費の半額分

### 第八章 結論

彼上各章を概括するに本島現在の黄麻作付面積をして将来今日以上に擴張せしむるは地方的事情を異にするより或は他重要作物との關係其他種々なる原因により事業或は難事ならんも、多少の進歩發展は決して期待せられざるにあらざるべし。然れども作付面積を増進せしむるの問題は今暫く之を措きて他日に譲り、今日吾人の最も注意と研究とを要する問題は他なし同面積より如何なる方法手段を以て倍額乃至以上の産額を挙げ得るやにありとす。

第五章第一節中當場に於ける試験成績及第二節以下第五節に至る地方主要産地に於ける成績とを比較對照せば改良の餘地一目瞭然たるべし。而して兩者間に如斯格段なる逕庭を生せる原因果して那邊に存在するや、之が探研は本問題解決に當り必要缺くべからざる必須事項の一たらざるべからず。

- (一) 栽培品種の優劣
- (二) 土地選定の適否
- (三) 施肥量の多寡

(四) 播種後に於ける管理手入の精粗

之を要するに地方農家の粗放的栽培法は兩者收量懸隔の一大原因なりとす。故に劣等品種に代ふる優良品種を以てし、且可成灌漑の便ある土地を選定し、施肥用量をして今日以上たらしむるに於ては例作付面積現在以上に増加せざるにせよ、産額の増加期して待つべきのみ。尙進んで製造法の如きも浸水に便なる地方には製麻會社をして製織所を設立せしめ、會社をして有用に活動せしめ間接に農民を指導するに至らば從來の製造法を生莖浸水法に改むるに何等撞著することなく、一は以て各自の福利を増進するを得べく一は以て原料黃麻輸入年額二百萬圓以上に膨張せる島外輸入額を防遏するを得べし。兩者何れも本島殖産界のため看過すべからざる問題なりとす。

終りに當場試験の結果優良品種として推奨するに足るもの次の如し。

- 一、淡紅皮種
- 二、深紅皮種
- 三、印度白皮種
- 四、晚生青種
- 五、短莖青種

以上五品種にして淡紅皮種及深紅皮種は共に本島在來幼麻製造に、他三品種は生莖浸水法による精製纖維製造に適せり。淡紅皮種及深紅皮種の二品種決して浸水法に適せざるにあらず。却つて收量の如き他三品種に優ると雖纖維品質他三品種に劣るを以て用途及目的より之を粗製纖維及精製纖維製造用の二種に區別せば前二品種を幼麻製造用とし、他三品種を精製纖維製造用として栽培するを有利となすなり。(完)



BULLETIN NO. 123.

MARCH, 1918.

AGRICULTURAL EXPERIMENT STATION

*Government of Formosa.*

---

Cultivation of Jute  
in  
Formosa.

By  
Katsujiro Hosoda.

---

Published by the Station.  
Taihoku, Formosa,  
Japan.

326

354

終

